

第2章 平成14年度エル・ネット「オープンカレッジ」実施状況

平成14年度 エル・ネット「オープンカレッジ」実施状況

1. 概要

(1) 経過

平成13年に引き続き、平成14年4月24日、文部科学省は、平成14年度「エル・ネット高度化推進事業」にかかる公開講座の実施大学を募集した。募集範囲は、日本私立大学団体連合会参加の大学、全国公立大学であった。

その結果、文部科学省と各大学の間で調整をすすめ、平成14年度『エル・ネット「オープンカレッジ」』として最終的に52大学、116講義が決定した。

エル・ネット「オープンカレッジ」実施経過

年度	放送形態	期間	大学数	講義数
平成11年度	プレ放送 本放送	平成11年11月～平成12年5月	27	123
平成12年度	再放送	平成12年8月～9月 (平成11年度放送分)	5	19
	本放送	平成12年10月～平成13年2月	50	172
平成13年度	再放送	平成13年5月～6月 (平成12年度放送分)	12	37
	本放送	平成13年7月3日～平成14年2月28日	46	154
平成14年度	再放送	平成14年5月7日～9月28日 (平成13年度放送分)	25	84
	本放送	平成14年10月1日～平成15年3月4日	52*	116

*宮崎大学・島根大学は連携講座により1大学とカウントしている。

(2) 収録

平成14年度の新規収録講座は平成14年8月より開始した。収録場所については以下の通りである。

収録場所
文部科学省本館（6F 試写室）
国立科学博物館（みどり館5F 特別会議室）
国立オリンピック記念青少年総合センター
大学内（収録大学内の部屋）

平成14年度、講座の収録総数は52大学116講義であった。

協議会委託方式については、講師が東京の収録会場に赴き、協議会より派遣された収録

スタッフの中で行う「東京収録型」と、大学等での公開講座等を、協議会より派遣されたスタッフが収録に行く「大学・その他収録型」の2つの型からなっている。

また、大学独自収録方式については、大学の所在する地域のプロダクションや、映像制作者に収録を依頼する「大学独自業者依頼型」と、教官や事務職員など大学内のスタッフが大学の施設で収録を行う「大学独自収録型」と、教官や事務職員など大学内のスタッフが県内の社会教育施設で収録を行う「大学独自収録型（県内社会教育施設の協力）」で実施した。

それぞれの内訳は以下の通りである。

収録形態	大学数	講義数
協議会委託収録（東京収録型）	15	33
（大学・その他収録型）	9*	21
大学独自収録（大学独自業者依頼型）	9	21
（大学独自収録型）	18	38
（大学独自収録型：県内社会教育施設の協力）	2*	3

*新潟大学は、3講義が協議会委託方式、1講義が大学独自収録方式となっている。

さらに、収録形態ごとの収録大学の内訳は以下の通りである。

①協議会委託方式

1) 東京収録型

月別	大学名
8月	山梨県立女子短期大学
9月	茨城大学、図書館情報大学、長崎大学、仙台大学、淑徳大学
10月	東北大学、東京外国語大学、山梨大学、流通経済大学、平安女学院大学
11月	お茶の水女子大学、流通経済大学
12月	千葉大学、お茶の水女子大学、信州大学、淑徳短期大学

2) 大学・その他収録型

月別	大学名
9月	北海道医療大学
10月	新潟大学、東京都立保健科学大学、東洋大学、中京女子大学
11月	武蔵大学
12月	山野美容芸術短期大学、広島大学、宮崎大学・島根大学
2月	宮崎大学・島根大学

協議会委託方式の収録にあたっては、平成14年7月15日に、エル・ネット「オープンカレッジ」大学説明会を実施し、講座収録の概要や実際の収録に関する注意事項などの説明会を実施した。ほとんどの大学がエル・ネット「オープンカレッジ」の収録経験校であったため、収録素材等に関する著作権処理に関しては、平成14年度に著作権に関するルール上の簡略化（質疑応答の質問者に対する著作権処理）を図ったために、概ねスムーズに行われた。

しかし、その一方で一部の大学では収録準備（講義の構成、提示資料等）不足から収録時間にかかなりの時間を費やしたり、また編集作業にかかなりの時間を費やしたりした。従って、今後の対応として、収録事前打ち合わせの再徹底等を行い、スムーズな収録ができるように推進する必要がある。

②大学独自収録方式

1) 大学独自業者依頼型

大 学 名
岡山大学、愛媛大学、創価大学、法政大学、女子美術大学、岡山商科大学、鳥取環境大学、松山大学、久留米信愛女学院短期大学

2) 大学独自収録型

大 学 名
東京音楽大学、筑波大学、金沢大学、岐阜大学、静岡大学、名古屋大学、兵庫教育大学、神戸大学、奈良教育大学、徳島大学、八戸大学、常磐大学、聖学院大学、東京家政学院大学、早稲田大学、中部大学、佛教大学、南九州短期大学

3) 大学独自収録型（県内社会教育施設の協力）

大 学 名
琉球大学、新潟大学

大学独自収録方式の収録にあたっては、平成14年7月31日に番組作成や収録方法、さらには著作権契約等についての説明会を実施した。

大半の大学は大学独自収録方式が初めてだったために、収録素材等に関する著作権処理に関しては処理が済んでいない素材（引用表記もされていないものも含む）も一部あった。これに関しては、大学独自収録の番組内容をチェックする際に、講義で使用する場合は著作物の権利者から許諾を得ることをお願いした。または、引用表記を行っていただくようお願いした。

大学独自収録型においては、番組作成コストが安く抑えられるというメリットがある。しかし、一方で大学ごとの収録設備、また担当者のスキルで違いがあるために、一部の大学でカメラワークが上手くいかなかった。そのため、映像にぶれがあったり、資料等がカメラで拡大表示されず見づらい場合があったり、提示資料の説明時にも関わらず講師がず

っと映っている、提示資料などが小さくて非常に見づらい、映像編集がスムーズでないなどの映像教材としての品質に問題があった。

さらに、音声レベルが場面によって違いすぎることや、カメラに付属されている内部マイクで録音したために、音声小さく聞きづらかったり、音質が悪いなど番組の品質上でのバラツキがあったりした。これに関しても、番組内容のチェックをする際に、各大学に修正を依頼した。しかし、一部の大学については公開講座を収録したために再収録の機会がないことや、協議会への提出期限（本来は放送日の1か月前）が遅れて修正期間がないこと、また、修正出来るだけのスキルと人材不足の問題で対応が難しかった。これらのことで、ある大学での放送の際に、音声小さく聞こえない、音声雑音がひどく聞きづらい、映像ぶれがあり見づらい等のことで放送を中断せざるを得ないケースもあった。

今後の対応としては、品質に問題がある場合の最終放送判断の仕組みの明確化、大学独自チェックタイミングの仕組みの見直し（現在は大学独自説明会后、提出日までチェックタイミングがない）、スキル不足の大学における協議会のフォロー体制等を確立する必要がある。

(3) 放 送

平成14年度の放送にあたっては、5月から放送を開始した。

放送日時については以下の通りである。

放送形態	放 送 日	放 送 時 間
再放送	火・木・金の午前1コマ	10:00～11:30
	土 午後1コマ	14:00～15:30
本放送	火・水・木・金の午前1コマ	10:00～11:50
	土 午後2コマ	13:00～14:50
		15:00～16:50

5月7日から9月28日まで、前年度（平成13年度）放送分の25大学講座84講義を再放送した。

また、平成14年度の本放送は10月1日から3月4日まで、52大学116講義を放送した。

	期 間	大学数	講義数
再放送	平成14年5月7日～9月28日 (平成13年度放送分)	25	84
本放送	平成14年10月1日～平成15年3月4日	52	116

平成14年度の本放送で放送された116講義のうち、録画のみで放送したものが106講義、ライブ放送、またはライブを含むものが10講義であった。ライブ放送の内訳は以下の通りである。

放送日時	大学名	講座名	講義数
10月11日	平安女学院大学	「ボランティア活動と社会参加」	1 講義
10月26日	新潟大学	「新潟連携公開講座2002」	1 講義
10月26日	山梨大学	「発達学入門と教育実践学入門」	1 講義
11月 2 日	流通経済大学	「インターネット社会では積極的に働きかけて生活しよう」	1 講義
12月13日	千葉大学	「トライアングル「家庭・学校・地域」子どもを育てよう」	1 講義
12月14日	淑徳短期大学	「21世紀生涯学習への招待」	2 講義
2月15日	宮崎大学・島根大学	「日本文化の源流を探る一日向と出雲の神話と芸能」	2 講義
2月22日	静岡大学	「やきもの考古学」	1 講義

さらに、双方向質疑を含む放送は9大学9講座で行われた。双方向放送の内訳は以下の通りである。

放送日時	議長局	講座名	参加局等	質疑応答方法
10月11日	平安女学院大学	「ボランティア活動と社会参加」	石川県立社会教育センター	テレビ会議システム
10月26日	新潟大学	「新潟連携公開講座2002」	県立生涯学習推進センター、十日町情報館、岩船広域教育情報センター	テレビ会議システム、SCS、エル・ネット
10月26日	山梨大学	「発達学入門と教育実践学入門」	不特定	携帯電話
11月 2 日	流通経済大学	「インターネット社会では積極的に働きかけて生活しよう」	ミシガン大学	インターネットチャット
12月13日	千葉大学	「トライアングル「家庭・学校・地域」子どもを育てよう」	秋田県総合教育センター	テレビ会議システム、エル・ネット
12月14日	淑徳短期大学	「21世紀生涯学習への招待」	青森県総合社会教育センター、熊本県泗水町中央公民館	テレビ会議システム
12月16日 23日 30日	徳島大学	「ホノルルマラソンをインターネット中継しよう」	不特定	インターネットチャット
2月15日	宮崎大学・島根大学	「日本文化の源流を探る一日向と出雲の神話と芸能」	南郷町南郷ハートフルセンター、えびの市えびの市民図書館、日向市日知屋公民館、島根大学	テレビ会議システム
2月22日	静岡大学	「やきもの考古学」	香川県教育センター	エル・ネット

(4) 広 報

平成13年度に引き続き、パンフレット（A4版）とポスターを作成した。また、ニュースレターについては、今年度4回発行した。

	パンフレット	ポスター	ニュースレター
平成11年度	31,000部	10,000部	—
平成12年度	37,000部	11,000部	各回115,000部
平成13年度	66,795部	11,759部	各回72,843部
平成14年度	60,365部	12,073部	80,721～88,491部
備考	H11, 14は2つ折り H12, 13は3つ折り	H11はA2版 H12, 13, 14はB2版	H12, 13は年5回発行 H14は年4回発行

ポスターとパンフレットは、エル・ネット受信施設、および広報先（大学・短期大学本部、高等専門学校、都道府県市町村教育委員会、教育事務所、全国公民館（分館を除く）、全国教育研究所）の8,121か所に配布した。なお、パンフレットについては、社会教育関係の全国大会等で一括配布を行った（全国図書館大会、全国公民館研究集会、全国社会教育研究大会、視聴覚教育総合全国大会）。

また、今年度もニュースレター『エル・ネット「オープンカレッジ」News』（A4版、Vol.11～Vol.13は4ページ、Vol.14は8ページ）を発行した。内容は、エル・ネット「オープンカレッジ」の放送予定、公開講座活用事例、主なニュースなど、エル・ネット「オープンカレッジ」に関する情報を提供した。発行は、7月8日・10月15日・12月16日・3月28日で、Vol.14ではモデル事業の報告を掲載した。このニュースレターは、エル・ネット受信施設（各施設50部）1,575～1,693か所、および広報先（教育委員会、各学校など）354～535か所に配布した。

また、インターネットWeb上での広報活動を実施した。エル・ネット「オープンカレッジ」Webページ（URL <http://www.opencol.gr.jp>）は、平成11年10月4日に公開を開始し、平成14年10月1日にはリニューアルを行った。平成14年8月から平成15年3月末までに、191,230件のアクセス数があった。

Webページの内容は、「受講者向け」に「受講の流れ」や「講座検索」、「受信局向け」に「公開講座を開くために」、その他「参考資料」などである。

(5) テキスト

テキストは、各講義1冊とした。全体で、115冊（宮崎・島根大学は第4・5講義で1冊）となった。テキストのボリュームは、各講義最大8ページに設定した。テキスト作成にあたっては、4月に開催された大学説明会時に「テキスト執筆要項」（資料・237頁参照）により依頼した。

テキストは各講座30部を初期作成部数とし、申し込みに応じて増刷した。テキストの申し込みについては、ニュースレターに添付されたテキスト申込書を使つてのFAX申し込みに加え、ホームページ上からの申し込みにも対応した。テキストの申し込み数（団体を

除く個人申し込み)で多い講座は、「21世紀と『心』の教育」、「やきもの考古学」、「親子の読み聞かせ」など。

また、平成12年度から冊子によるテキストのほかに、PDFファイル化したテキストをインターネットWeb上からダウンロードできるようにした。平成14年度ダウンロードされた回数の多いものとしては、「やきもの考古学」、「21世紀と『心』の教育」、「まちづくり学」などである。総ダウンロード回数は、11,013回であった。

(6) モデル事業

平成14年度は、受信施設におけるエル・ネット「オープンカレッジ」の有効活用、および利用体制の在り方に関する調査研究を実施するため、以下の10か所をモデル地区に指定し、講座が有効に利用される方途を調査研究した。

- (1) エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会
(秋田県教育庁生涯学習課)
- (2) 常磐大学エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会
(常磐大学生涯学習センター)
- (3) 「にいがた連携公開講座」実行委員会
(新潟県立生涯学習推進センター)
- (4) いしかわエル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会
(石川県立社会教育センター)
- (5) 「しずおか連携講座」実施委員会
(静岡大学生涯学習教育研究センター)
- (6) 愛媛県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会
(愛媛県教育委員会生涯学習課)
- (7) 徳島大学エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会
(徳島大学大学開放実践センター)
- (8) 泗水町エル・ネットモデル事業実施委員会
(熊本県泗水町教育委員会生涯学習課)
- (9) 宮崎・島根エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会
(宮崎大学生涯学習教育研究センター)
- (10) 沖縄県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会
(琉球大学生涯学習教育研究センター)

各モデル事業の詳細は、第3章-3「事例」を参照。

2. 大学独自収録・地方V S A T局送信について

前節で触れたように、平成13年度より大学独自収録方式による番組収録を実施した。

これは、大学が主体となった収録体制と全国の地方V S A T局の活用により、低コストで効果的な講座を提供することをねらいとしたものである。ここでは、独自収録経費を協議会で一部又は全部を負担した27大学と地方V S A T局の協力を受けた8大学の事例を紹介する。

大学独自収録

1. 筑波大学

(1) 概要

平成14年8～10月に亘り大学独自収録方式の大学独自収録型にて1講座1講義を収録、編集を行い放送した。

(2) 事業の成果と今後の課題

筑波大学生物科学系林純一教授による、平成14年度エル・ネット「オープンカレッジ」講座「遺伝子が作る文明」放送映像（約102分）が筑波大学において制作され、同映像が高等教育情報化推進協議会により予定通り放送された。平成15年度に再放送も予定されている。さらに同映像は、平成14年度N I M E ワールド（国際教育チャンネル）で放送された。日本における生涯学習用映像及び日本発信の科学教育用映像として効果を上げた。今後、筑波大学において事業の継続・発展を図ることが課題である。

2. 金沢大学

(1) 概要

平成14年8～10月に亘り講義内容の検討、同年10～12月にかけて大学独自収録方式の大学独自収録型にて1講座1講義を収録、編集を行い放送した。

(2) 事業の成果と今後の課題

これから剣道を指導する指導者にとっては、十分参考となるビデオテープと考えられるが、いつでも、誰でも、何処でも映像が見られるようにすることが必要であり、課題と考えられる。

3. 岐阜大学

(1) 概要

講座の番組制作に関わる企画及び運営体制についての調査研究を行うとともに、大学独自収録方式の大学独自収録型にて1講座1講義の収録、編集を行い放送した。

(2) 事業の成果と今後の課題

岐阜大学における独自収録は、今事業が最初であったため、番組収録についての種々の教訓を得ることができた。例えば、講師と収録スタッフとの間の綿密な打合せ・調整の必要性、番組内提示資料の著作権処理についての留意点、収録番組の編集作業に関わる注意事項などである。今回得られた番組収録のノウハウをもとに、以降の岐阜大学発信講座の拡充に努めるとともに、情報通信ネットワークを活用した生涯学習の可能性を追求したい。

4. 静岡大学

(1) 概要

実技・演習を伴った講座を大学独自収録方式の大学独自収録型にて1講座2講義収録し、それを静岡県総合教育センター（静岡V S A T局）から全国に配信した。

(2) 事業の成果と今後の課題

今回は静岡地域においては大学独自収録・発信とも初めての取り組みであったが、いずれも大学と地方V S A T局独自で実施できたことが第一の成果であった。加えてエル・ネットの双方向性を活かした遠隔地にいる講師－受講者間のライブ質疑をも地方V S A T局間で実施でき、その可能性を検証することができたことが第二の成果である。

今後の課題としては、番組収録およびライブ放送の際に直面した困難に対応できる制作スタッフ、サポート組織の育成があげられる。

5. 名古屋大学

(1) 概要

無線通信システムに関する講義を大学独自収録方式の大学独自収録型にて1講座3講義収録し、必要なコンピュータ画像との合成、編集作業を行いオープンカレッジ放送用コンテンツを作成した。また、その後そのコンテンツの電子ファイル化等を行った。あわせて、著作権のような知的所有権についても調査を行った。

(2) 事業の成果と今後の課題

エル・ネット「オープンカレッジ」において比較的少ない工学系の内容の放送番組を作成した。また、その放送コンテンツの電子ファイル化についても検討し、放送コンテンツ資源の再利用の方策についても検討できた。番組制作の負担と視聴者数の比を小さくする方策の検討が課題である。

6. 兵庫教育大学

(1) 概要

大学の教官等スタッフにより、「エル・ネット」を利用した遠隔大学公開講座を活用し、全国の社会教育施設に提供するために、1講座2講義、1講座1講義を大学独自収録方式の大学独自収録型で収録し、他機関である兵庫県立教育研修所（兵庫V S A T）と連携し、同施設から放送した。

(2) 事業の成果と今後の課題

① 学内の評価（コスト面と映像技術面との兼ね合いで）

- ・世界の言葉でこんにちは—自動翻訳によるコミュニケーション—

学生アルバイトにより収録したこと、及び台本を数回改善したため、モニターの意見により再収録したため、収録日数を要した。結果的にはそれにより、映像全般が改善された。しかし、ある受講者から「文字に比べスクリーンの画像が今一つで残念だった」旨の感想があった。

- ・衛星通信による遠隔日本語教授・学習について

通常の授業においてITの利用を進める動機が持てるようになったのは、講師として番組制作に関わり、得た成果と考える。技術的なことは、助手の協力を得るなど、大学として出来る限りの最大限の努力を行ったが、整備が現状のまま、また、スタッフが現状のままでは次年度に当たっては、独自収録は無理であると言わざるを得ない。

② 地域連携としての公開講座制作についての評価

本事業は両講座とも、本学が制作、兵庫県立教育研修所が放送、という連携が行われた。制作における連携ではなかった。本学の学校教育研究センターに隣接する、兵庫県立教育研修所から、番組を配信できることになり地域と関わりが持てた。両機関は以前から協力関係があり連携はスムーズに行われた。

③ 施設（施設利用のみ）としてのメリットはあったか

施設活用実績の一つに加えられた。

施設：本学

- ・学校教育研究センター スタジオ
- ・共通講義棟SCS教室

7. 神戸大学

(1) 概要

大学公開講座の内1講座3講義を選択し、大学独自収録方式の大学独自収録型で収録、協議会にて編集を行い放送した。

(2) 事業の成果と今後の課題

講師へは多種多様な質問等があり、少なからず興味をそそる講座内容であった。収録等には当初放映の計画がなされていなかったため、不具合を生じたことが多々あった。今後もエル・ネットでの放映を考えており、規格にあった撮影等を行いたい。

8. 奈良教育大学

(1) 概要

大学独自収録方式の大学独自収録型で1講座1講義の収録・編集を行い放送した。

(2) 事業の成果と今後の課題

大学での独自収録により、編集作業の工程が理解できた。今以上に品質を向上させる必要があり、そのためには外部に委託するなど、専門家に協力を依頼する必要がある。

9. 岡山大学

(1) 概要

大学独自収録方式の大学独自業者依頼型で1講座2講義の収録・編集を行い放送した。

(2) 事業の成果と今後の課題

当初、岡山県教育センター（岡山V S A T局）から放送の予定であったが、同施設の利用可能日と放送予定日が合わず、国立科学博物館から放送することとなった。

地域と連携して地方からエル・ネット「オープンカレッジ」を発信することは大きな意義があり、今後、事業実施のために施設との日程調整を早期に実施するなど、教育情報衛星通信ネットワークの高度化を推進していきたい。

なお、学内に撮影や編集機材を整備すること、ならびにスタッフの育成が今後の課題である。

10. 徳島大学

(1) 概要

eラーニングシステムによる予告編作成・広報、インターネットによるリアルタイム質疑応答システムの開発・運営、事前練習会、放映中のチャットによる質疑応答などを試みた。また移動受信装置の実験利用も行った。収録形態は1講座3講義を大学独自収録方式の大学独自収録型で行った。

(2) 事業の成果と今後の課題

受講者も参加しての大学独自収録とインターネットによるリアルタイム双方向質疑応答システムを組み合わせた本事業では、内容により豊かで満足度の高い学習と受講者との交流ができた。システム利用のための設備的、操作技能的問題に対処が必要であり、受講者の事前学習、継続学習にも影響を及ぼすことから、今後のひとつのスタイルとしてさらなる調査、研究、開発が望まれる。

11. 愛媛大学

(1) 概要

大学独自収録方式の大学独自業者依頼型で1講座3講義の収録・編集を行い、愛媛県教育委員会ならびに愛媛県総合教育センター（愛媛V S A T局）との連携により、同施設から放送した。

(2) 事業の成果と今後の課題

愛媛県教育委員会、愛媛県総合教育センター等と大学が連携し、地方V S A T局を利用

して講義を発信したことで、地域社会、特に生涯学習に対する質の高い支援が大学によって提供できることが保証された。その意義は大きい。今後、大学の使命の一つである地域貢献の一方策として、社会教育施設で行われるさまざまな事業に大いに活用されるべきである。

しかしながら、講義収録と編集作業及び生放送のためのスタッフに関しては、プロのスタッフの技術や設備が不可欠であり、講義内容はもちろんのこと、番組としてのメリットを考えたとき、受講者が興味を持てる内容（見せ方）にするための工夫がより一層重要視される。魅力ある講義にするため、限られた予算と現状のスタッフでどこまで出来るかが今後の課題である。

12. 琉球大学

(1) 概要

大学の公開講座を沖縄県教育委員会との連携による離島を含めた県内高等学校との高大連携講義として実施する。県立総合教育センターでの2講座2講義の様子を大学独自収録方式の大学独自収録型（県内社会教育施設の協力）で収録し、それを沖縄県立総合教育センター（沖縄V S A T局）から発信し、サテライト会場と電話による質疑応答を行った。

(2) 事業の成果と今後の課題

エル・ネットの機材設備のある県立総合教育センターの研修室に県立北中城高等学校の生徒を集めて教室形式で講義を進め、その模様を録画した。講義はテレビモニターを使用して、事前に撮影した風景や編集した資料を示しながら進めた。

収録作業は、琉球大学及び県の職員とも、エル・ネットの機材操作に慣れていないため、(株)沖縄映像センターのスタッフに応援をお願いした。

放送用ビデオの編集は、パソコン処理によって、講義の模様にテレビモニターで使った資料映像を取り込む作業を行った。これは、パソコン処理に詳しい琉球大学の教官が大学院生の協力を得て行ったが、初めてのこともあり、かなりの労力と時間を費やすことになった。

放送当日は、ビデオでの講義に引き続いた質疑応答の部分を生放送したのであるが、講義が高校生を前にしたものであり、講師も通常の講義のように、話しかけながら行っていたので、放送全体をあたかも生で進めているように感じた高校生がいた。

公開講座の独自収録や特にライブでの電話による質疑応答など、機器操作に専門性が要求されるものであり、琉球大学及び沖縄県とも初めての試みであった上に、職員が機器操作をする頻度が少ないため、民間事業者の協力がなければ実現が難しかった。また、編集作業も専門スタッフではない教官等の個人の力量に依存した形で進めたものであり、今後、収録、編集、放送にかかわる専門スタッフの養成が必要である。

13. 八戸大学

(1) 概要

大学公開講座を「あおもり県民カレッジ」の公開講座と連携して実施した。これを大学

独自収録方式の大学独自収録型で1講座2講義の収録・編集を行うとともに、青森県総合学校教育センター（青森V S A T局）と連携して同所から発信した。

（2）事業の成果と今後の課題

① 事業の成果

- ・大学独自収録事業であり、昨年の経験から編集に時間がかかるということが予想されたので、収録前に担当者との事前計画を綿密に行った。その結果、発信日の繰り上げによる収録日から発信日までの編集時間の短縮が問題となったが、2講義ということもあり期間内で終えることができた。
- ・収録講座を学外機関との連携講座（あおもり県民カレッジ「あおもり学講座」）という取り組みとして2年目であるが、昨年にもまして関係機関との連携が深まった。
- ・今年も八戸市役所をはじめ、市商工会議所などの八戸市紹介に関するテープ作成については協力を得ることができた。
- ・地域や受講生がエル・ネットに関心を持つようになり、また学内でも受信装置の導入機運が高まり、年度当初予算には計上していなかったが、受信装置を設置した。
- ・講座企画はもとより、限られた設備、機器を工夫、駆使することによって編集も含め、多様なやり方が可能であるという感触を得た。
- ・本学のような遠距離にある場合、電子メールでのやり取りによりスムーズに事務連絡処理が行えたことはメリットであった。

② 今後の課題

- ・著作権や独自収録事業に関するフローチャートも含めた説明、理解は十分であったが、発信にあたっての「企画書」の記載事項で、発信局が記載するのか、大学が記載するのか実際面で混乱が生じたので、独自収録用の「マニュアル」の確立が望まれること。
- ・発信予定日の繰り上げにより、収録公開講座の日程変更、編集日程について、関係機関と連絡調整する時間と収録日から発信日までの編集スケジュールが予想以上にタイトになってしまったこと。

14. 常磐大学

（1）概要

できるだけ受講者や受講グループの意見、要望を取り入れてプログラムを決定するなどの利用者のニーズを反映した事業に努め、大学独自収録方式の大学独自収録型で1講座3講義の収録・編集を行い放送をした。

（2）事業の成果と今後の課題

① 事業の成果

大学の独自収録は、低コストで番組を制作できるとともに、大学の特色を生かした講座をつくり上げ、それをエル・ネット「オープンカレッジ」の受講生に提供できる点に特色があると思われる。その点、本学においては、人間科学部やコミュニティ振

興学部の授業で使用している機器等が整備されている。それは、収録した映像を編集するパソコンソフトや画面の合成や変形などによって映像を効果的に作成したり、編集するための各種AV機器等である。また、これらの機器等を駆使できるAVエンジニアも在職している。従って、本学において、大学独自の収録を行うにあたっては、特別な準備をする必要もなく、収録・編集の両面で極めて簡便に成果を上げることができた。今回、新たな取り組みとして、エル・ネット「オープンカレッジ」の受信施設として、本学の講座を一般の方も受講できるよう放送時に受信装置設置の教室を開放し、一般の方20名に受講していただいた。エル・ネット「オープンカレッジ」は、全員がはじめての受講であった。この取り組みを実施するにあたり、県内の複数の各社会教育施設等への聞き取りを行った。本県において「オープンカレッジ」をプログラムとして企画しているところは殆んどなく、住民レベルにおいてもエル・ネットの存在そのものを理解しているケースは極めて少ないことがわかった。今回の受講者20名のエル・ネット「オープンカレッジ」への評価は非常に高く、この素晴らしいシステムを、一日も早く利用したい、近隣の公民館等で受講したいとの感想や、また、国や自治体のエル・ネットの推進政策はどうなっているのかなどの質問もあった。今回の取り組みで、エル・ネットを利用することによって、全国の大学のさまざまな講座を受講することができ、「オープンカレッジ」に対する需要が間違いなくあること、今までの限られた環境の中での学習機会が大きく広がり、多様な学習ニーズに応えるためにもエル・ネットのさらなる活用を検討していくことが必要であることを改めて確信した。

② 今後の課題

- ・過年度および本年度実施講座について、点検項目を設けて慎重に点検を行ったうえ、改善すべき点を見直して今後の講座開設にあたる。
- ・今回の講座は、従来の受講生が受身の形である受講形態を改め、講座展開中に課題を出すなど参加型の内容とした。次年度以降、その発展型として担当講師と受講生の間で質疑応答や別会場の受講生との意見交換など双方向通信が可能となる講座を提供できるよう検討していきたい。
- ・「オープンカレッジ」をはじめ、エル・ネットの活用が決して十分とはいえない本県において、この素晴らしいシステムをいかに一般の方々や公民館等の社会教育施設、高等学校等に周知していくか、また、既存の施設でのさらなる有効活用への助言、需要の喚起など、エル・ネット全体の推進政策を検討し、本学がそのリーダー的役割を果たしていきたいと考える。

15. 聖学院大学

(1) 概要

効果的な教育講座の収録を行うため、教育方法、必要な収録及び編集作業体制、運営体制等についての総合的な調査研究を実施し、大学独自収録方式の大学独自収録型で1講座3講義の収録・編集を行い放送した。

(2) 事業の成果と今後の課題

① 事業の成果

- ・遠隔教育のための講義収録の方法への理解が深まったこと

大学では、これまで遠隔授業のための講義収録の経験がなく、他大学の例などを参考にしながらイメージを抱くのみであった。今回、エル・ネットの大学独自収録事業に参加することは、そのノウハウが得られるものと考え、参加に踏み切った。そこで収録にあたっての諸注意を得られたことは、大きな収穫であった。

- ・編集加工技術への理解が深まったこと

収録した映像を、遠隔教育向けのコンテンツへ編集加工することは、遠隔教育の実践の中でも重要な位置を占めると考えられる。見やすく、わかりやすいコンテンツに仕上げることは大事なことだが、その分、手間と時間とコストがかかることになる。実作業のノウハウの蓄積と、そうした流れとそれに伴うコストの把握は、遠隔教育の成否を握っていると考えられる。

- ・著作権処理への関心が高まったこと

教員は、通例の授業の中ではあまり「著作権」を意識せずに授業を行うことが多い。今回の収録に当たっても、使いたい資料が著作権の問題で使用できないことが、途中で判明した。そのことは当初目論まれていた講義の質からいえば、マイナスなのだが、今後、このような経験から教員の「著作権」への関心が喚起できることは有益であった。また、使える資料を探すなかで授業への工夫も深まると予想される。

② 今後の課題

- ・編集加工技術への対応

今回、もっとも苦慮したのは編集加工技術の面であった。本学にはこれまで、そうした面を担当していた教職員は居らず、この事業に当たっては新たに技術の習得の必要性に迫られた。そのことも踏まえて収録・編集加工に当たっては、当初、次のような心積もりを立てた。

- a) 今後の展開を意識して、収録は家庭用デジタルビデオカメラ、編集はPCによって行う。
- b) 収録は協議会主導で行うこととし、内容などにも配慮する。
- c) 編集は、今後、ストリーミングまたはVOD（ビデオオンデマンド）などに進むことを意識して、字幕・テロップ・資料の提示などの工夫を調査する。

意図としては、「手軽な収録、手軽な編集」ということであったが、収録はほぼその目的は達成できたものの、編集では「手軽」とはいかなかった。

当初の計画では、PCによるビデオ編集は不要部分のカットなどを行い、その後オーサリングツールなどにより、教材提示やテロップなどを入れて同期をはかり出力する、というものであったが、結局、今回の事業ではオーサリングツールの習熟が制作に間に合わず、十分に活用できなかった。

また資料作成においても、効果的な見やすい資料の作成を意図して、DTPソフトなども導入したが、これも十分に活用し切れなかった。

以上のような、それぞれの作業において使用する技能の必要性が認識は出来た

が、今回には生かしきれなかったのが問題点といえよう。

しかし、この問題は、おそらく本学のみの問題ではなく、遠隔教育のためのコンテンツ作成にからんでは、当然おきうる問題だと思われる。すなわち、講義の収録→編集加工→提供という流れの中で、「手軽な収録、手軽な編集」はコストや人的資源の面からも必要な方向であるのだが、逆に講義を「見やすく、わかりやすく」加工しようとすればするほど「手軽」ではなくなってくる。このふたつのベクトルのバランスをどのようにとってゆくかが事業化への鍵となると思われるからである。

16. 創価大学

(1) 概要

大学独自収録方式の大学独自業者依頼型で1講座3講義の収録・編集を行い放送を行うとともに、通信教育部生、学内関係者の受講による学習効果の調査を行った。

(2) 事業の成果と今後の課題

初めての取り組みであり、相当の準備をして臨んだ。収録に関しては大学内の人員・機材で可能との意見もあったが、学外の専門職の方に応援を依頼した。映像の出来栄は大変満足するものとなったが、学内だけでは、ここまでのレベルに至るのは困難であったと思われる。今回に限りボランティアで出動してもらったので、テープ等消耗品関係の支出のみで済ませることができた。

17. 東京家政学院大学

(1) 概要

大学独自収録方式の大学独自収録型で1講座2講義の収録・編集を行い放送を行うとともに、これらを使用した教育効果についての研究を行った。

(2) 事業の成果と今後の課題

長時間の講義の編集は大変な作業であったが、初期の目標は達成された。
ただ、収録プロセスにおいて改善点を多く見つけることができ、今後に活かしたい。

18. 法政大学

(1) 概要

大学独自収録方式の大学独自業者依頼型で1講座1講義の収録・編集を行い放送を行った。

(2) 事業の成果と今後の課題

収録対象の公開講座は無料ということもあったが、応募者が200人を超え、テーマに対する関心がいかに高いかを実感した。

但し、テープの制作に多大の労力を要し、公開講座の収録・制作には、それ相応の設備

機器と技術スタッフが必要であることを痛感した。

19. 早稲田大学

(1) 概要

昨年度までは文部科学省施設にて収録を行っていたが、新たな取り組みとして大学独自収録方式の大学独自収録型で1講座2講義の収録・編集を行い放送をした。今回は映像を意識し、パワーポイント資料や遺跡の写真を多用した内容とした。

(2) 事業の成果と今後の課題

今年度は大学独自収録として事業を行ったことで、収録スタッフや講師との綿密な打合せなど、講座番組を自分達で作あげたことでコンテンツ制作ノウハウがある程度蓄積された。今後は受講者にとってより魅力ある内容にするための工夫をしたい。

20. 女子美術大学

(1) 概要

大学独自収録方式の大学独自業者依頼型で1講座3講義の収録・編集を行い放送を行うとともに、教育方法に関する調査研究を行った。

(2) 事業の成果と今後の課題

ビデオ製作にあたっては、作品の制作過程や参考作品、資料などを多く取り入れ、より良く理解してもらえることを念頭に置いて講義を構成した。反面、細切れになった場面の編集にあたっては、時間の制約などもあり、以外に大きな労力を費やす結果となった。また、たくさん学生の登場させたことにより、承諾書の取得に手間取ったこと、外国美術作家の遺作を引用するための著作権協会や代理人（弁護士）との交渉にも時間がかかり神経も使った。

21. 中部大学

(1) 概要

大学独自収録方式の大学独自収録型で1講座2講義の収録・編集を行い、放送するとともに、番組の制作法および講義展開法等に関する研究を行った。

(2) 事業の成果と今後の課題

① 事業の成果

- ・放送公開講座2講義のPRポスターを全エル・ネット受信局に送付
- ・本学にて、放送講義1の受信・公開上映
- ・本学にて、放送講義1-2の公開セミナー（上映・講演会）
- ・メディア教育開発センター「N I M E ワールド」に講義1-2の応募
- ・大学独自収録事業推進に関わる貴重な実践的ノウハウを蓄積できた。

② 今後の課題

次回は、制作時間等の短縮・効率化を図りたい。

22. 佛教大学

(1) 概要

大学独自収録方式の大学独自収録型で2講座各1講義の収録・編集を行い放送を行うとともに、衛星通信を利用した広域的な大学公開講座を実施するために必要な受信・配信・運営体制等について、また地方V S A T局からの発信を含めた総合的な調査研究を実施した。

(2) 事業の成果と今後の課題

① 事業の成果

教育番組制作の企画・実施の技術的側面や肖像権等の諸権利に関する処理ノウハウを蓄積することが出来た。また、当該事業の実施を通じて、編集システム改良や教材映像情報のデータベース化事業（年次計画）の指針策定に繋がる成果が得られた。

② 今後の課題

収録（特にカメラワーク）の未熟さ、企画を通じての教育効果を上げるための技術（米国におけるインストラクショナルデザイナーなど）獲得のための人材育成方法。ノンリニア編集システムの改良すべき課題として、DV-CAM（SP）での収録画像が編集システムでのデジタル作業において、クオリティの減衰を生じさせていることや、ディスク容量の不足から、50分×4コマの収録画像が同時並行的に作業を進められない等の描出が行えた。また、当該事業を含む教材映像制作への全学的な支援体制（スタッフの措置と実施協議会の学内的な位置付けなど）の次年度に向けての整備が必要といえる。

23. 鳥取環境大学

(1) 概要

大学独自収録方式の大学独自業者依頼形で1講座3講義の収録・編集を実施、放送を行った。

(2) 事業の成果と今後の課題

- ・大学の知的資源を全国に向けて発信する機会として、本事業は有意であった。また、地元V S A T局（鳥取県教育研修センター）からの送信がほとんど行われていなかったため、今回の送信が契機となり、地方から全国に向けた情報発信のツールとしての活用が期待される。
- ・本協議会の反省点としては、外部の収録専門スタッフにお願いしたにもかかわらず画像が鮮明でなく残念な結果となったことが挙げられる。
- ・全体的な課題としては、①エル・ネットという公開講座受講ツールを受講者の身近なものとしていくために、仕掛けとコンテンツについて考えていく必要があること、②講座準備、テキスト作成に作業における教員等の負担が大きいため、教員の理解を得て、継続参加するためには、本事業の効果（視聴者数及び視聴者の反響）について、数字等で具体的効果を示す必要があること、③本協議会制作の番組だけなのかもしれないが、受

講者の反応が少なく、全国に発信しているに於いては、寂しい状況なので、広報活動について、工夫が必要である。

24. 岡山商科大学

(1) 概要

大学独自収録方式の大学独自業者依頼型で1講座2講義の収録・編集を実施、放送を行った。

(2) 事業の成果と今後の課題

岡山県教育センターや岡山県生涯学習センターならびに県の施設や人材等と連携を深められたことは、大学の研究内容を社会に還元させる上でも、意義のある事業であったと考えられる。

反面、大学には放送用の講座を収録・編集できるスタッフや、そのための機器、設備がないため、大学の人材、設備では独自収録を行える環境ではなかった。今回も、地元民放会社の協力が得られ、無償に近い形で講座の収録・編集ができた。今後、視聴し易い講座を制作しようとするならば、そのためのスタッフの確保や機器、設備の整備を行う必要がある。

25. 松山大学

(1) 概要

大学独自収録方式の大学独自業者依頼型で1講座3講義の収録・編集を実施、放送を行った。

(2) 事業の成果と今後の課題

本学の講座を、全国の社会教育施設、学校などの受信局に配信することで、本講座が遠隔地の視聴者にも受講可能となった。

今後の課題としては、エル・ネット高度化推進事業の主旨に沿った講座を今後開講すること。また、開講した場合は、出演講師の収録に対する理解と協力を得ることが課題となる。

26. 久留米信愛女学院短期大学

(1) 概要

情報化・多様化・広域化が進む学習ニーズに対応すべく、大学独自収録方式の大学独自業者依頼型で1講座1講義の収録・編集を実施、放送を行った。

(2) 事業の成果と今後の課題

本放送日には大学を開放し、一般市民の視聴を可能とした他、後日、ビデオによる上映会も実施し、結果、本大学の講座に関心を持ってもらった。

オープンカレッジ事業に対する関心も高く、本学にて他講座を受講したいとの希望も寄

せられた。このことは、地域の方へ学習機会の提供を行うことができたことであり、大きな成果と考えられる。しかし、周辺の受信施設との連携が不十分であったことは、課題として反省する。

27. 南九州短期大学

(1) 概要

大学独自収録方式の大学独自収録型で1講座1講義の収録・編集を実施、放送を行った。

(2) 事業の成果と今後の課題

予定どおり放送が実施され、パソコンの基礎知識についての生涯学習を通して、社会貢献の一端を担った。収録作業の効率化が今後の課題である。

*この他に、新潟大学が県内社会教育施設と連携して独自収録を行っているが、モデル事業として実施している為、この項からは省略し、第2章-3.「双方向質疑等の事例」、第3章-3.「事例」を参照いただきたい。

地方V S A T局送信

1. 新潟大学

(1) 概要

新潟大学が実施した公開講座をSCS（スペース・コラボレーション・システム：大学間衛星通信ネットワーク）を活用し、新潟大学からアップリンクし、岐阜大学で受信した。その後、岐阜県の情報ネットワーク（地上回線）を使用し、岐阜県総合教育センター（V S A T局）からエル・ネット番組として全国に放送した。また、新潟大学と県内2施設（新潟県立生涯学習センター、岩船広域教育情報センター）とを、テレビ会議システムで接続し、意見発表などを行った。

(2) 日程

放送日：『にいがた連携講座2002－エル・ネット特別講座－』

10月26日（土）13：00～14：40

①「日本海がはぐくんだ地域と文化」

2. 八戸大学

(1) 概要

エル・ネットを利用した遠隔大学講座を、あおもり県民カレッジの公開講座として青森県総合社会教育センターと学外連携し、青森県総合学校教育センター（青森V S A T局）から発信した。

(2) 日程

放送日：『文学と「ことば」の世界』

10月22日（火）10：00～11：50

①「サン・テグジュペリと宮沢賢治－『星の王子様』と『銀河鉄道の夜』をめぐる』

10月29日（火）10：00～11：50

②「複数表現再考－接尾語『たち』の流行をめぐる－』

3. 鳥取環境大学

(1) 概要

鳥取環境大学が実施した公開講座を大学内の設備を活用し大学独自収録で実施した。この番組を鳥取県教育研修センター（鳥取V S A T局）から全国に放送した。

(2) 日程

放送日：『コンピュータと通信』

12月5日（木）10：00～11：20 ①「電子メールはなぜ届く」

12月12日（木）10：00～11：25 ②「携帯電話でなぜ話ができる」

12月19日（木）10：00～11：25 ③「光ファイバの話」

4. 愛媛大学

(1) 概要

愛媛大学公開講座「街がはぐくむ演劇、演劇がはぐくむ街」(全3回)を大学で独自収録し、愛媛県総合教育センター(愛媛V S A T局)から全国に放送した。県内3施設(新居浜市立別子銅山記念図書館、愛媛県立中央青年の家、内子町内子東自治センター)からF A Xによる質問を行い、3回目(最終回)に講師がライブで回答した。

(2) 日程

放送日:『街がはぐくむ演劇、演劇がはぐくむ街』

12月6日(金) 10:00~11:50

- ①「レビューが生まれた街-進化する演劇都市宝塚- / ブロードウェイ・ミュージカルの世界とニューヨーク」

12月12日(木) 10:00~11:25

- ②「町民劇場の保存と地域づくり / フランス演劇の舞台をめぐる-パリの演劇とアヴィニョンの演劇祭」

12月19日(木) 10:00~11:25

- ③「内子座(愛媛県内子町)とグローブ座(ロンドン) / オペラとオペレッタの街、ウィーン」

5. 琉球大学

(1) 概要

琉球大学の講座を沖縄県教育委員会との連携により高大連携として実施した。琉球大学が独自収録をしたビデオを沖縄県総合教育センター(沖縄V S A T局)から全国に放送した。また、各講座終了後県内5会場と電話によるライブ質疑応答を行った。

(2) 日程

放送日:『琉球と中国・アジアとの交流史』

1月7日(火) 10:00~11:50

- ①「琉球王国と首里城」「琉球とアジアの交流」

1月14日(木) 10:00~11:50

- ②「琉球の詩人と中国」「漢詩に詠まれた技術」

6. 宮崎大学・島根大学

(1) 概要

宮崎市教育情報研修センター(宮崎市V S A T局)から宮崎大学と島根大学との連携による5回シリーズの公開講座を収録した。1回目から3回目を録画放送、4回目~5回目はライブ放送で全国に放送した。また、5回目の講座では宮崎会場(宮崎市教育情報研修センター)と島根会場(島根大学)とをテレビ会議システムで結び、全講師によるパネルディスカッションを行った。さらに、宮崎県内3施設(南郷町南郷ハートフルセンター、

えびの市えびの市民図書館、日向市日知屋公民館) をテレビ会議システムで接続し、質疑応答を行った。

(2) 日 程

放送日：『日本文化の源流を探る一日向と出雲の神話と芸能―』

- 1月18日(土) 13:00～14:45 ①「日向神話にみられる日本文化」
- 1月25日(土) 13:00～14:45 ②「出雲神話にみられる日本文化」
- 2月1日(土) 13:00～14:45 ③「出雲の神楽・芸能にみられる日本文化」
- 2月15日(土) 13:00～14:40 ④「日向の神楽・芸能にみられる日本文化」
- 2月15日(土) 15:00～16:40 ⑤「日本文化の源流を探る」

7. 静岡大学

(1) 概 要

静岡大学の講座『やきもの考古学』を大学で独自に収録した。それを静岡県総合教育センター(静岡V S A T局)から全国に放送した。2回目の講座では、他地域のV S A T局(香川県教育センター)と衛星ライブによる質疑応答を実施した。静岡県総合教育センターの講師と香川県教育センターの受講生とでやきもの出土品の復元作業が実習として行われた。

(2) 日 程

放送日：『やきもの考古学』

- 2月8日(土) 15:00～16:50 ①「やきもの考古学Ⅰ」
- 2月22日(土) 15:00～16:50 ②「やきもの考古学Ⅱ」

8. 兵庫教育大学

(1) 概 要

兵庫教育大学が独自に講座を収録し、兵庫県立教育研修所(兵庫V S A T局)から全国に放送した。

(2) 日 程

放送日：『衛星通信による遠隔日本語授業・学習について』

2月21日(金) 10:00～11:50

- ①「衛星通信による遠隔日本語授業・学習について」

『世界のことばでこんにちは-自動翻訳によるコミュニケーション-』

2月27日(木) 10:30～12:20

- ①「文字表示のしくみと自動翻訳サイトを知ろう！」

2月28日(木) 10:30～12:20

- ②「翻訳サーフィンとメールでコミュニケーションをとろう！」

3. 双方向質疑等の事例

遠隔講義におけるライブ放送や双方向質疑は、学習者の学習意欲向上や、学習内容の理解を促進するために、重要なものとして位置付けられている。双方向質疑等を実施するためには、エル・ネットの衛星通信に加えて、他のシステムを組み合わせることも必要となる。そのシステムには、以下のように多様な手段があり、それぞれ特色のある講座番組が実施されてきた。

通信経路		使用システム・機器	使用目的
公衆回線	地上系	テレビ電話テレビ会議システム (フェニックス・ISDN)	双方向質疑
		電話	双方向質疑 質問送信
		ファックス	質問送信 (主に受信施設からの送信手段)
	地上系・無線系	通信機能付き電子情報ボード	双方向通信
	無線系	携帯電話 (通話)	質問送信
インターネット		テレビ会議システム	双方向質疑
		メール機能付き携帯電話 (メール)	双方向質疑 質問送信
		デジタルカメラ付き携帯電話 (画像送信)	画像送信
		講座独自のホームページ構築してのチャット・掲示板	双方向質疑
衛星	V S A T局	双方向質疑	

さらに、放送は、以下のように「ライブ放送」、「録画放送」「録画放送+ライブ放送」の形態が考えられる。

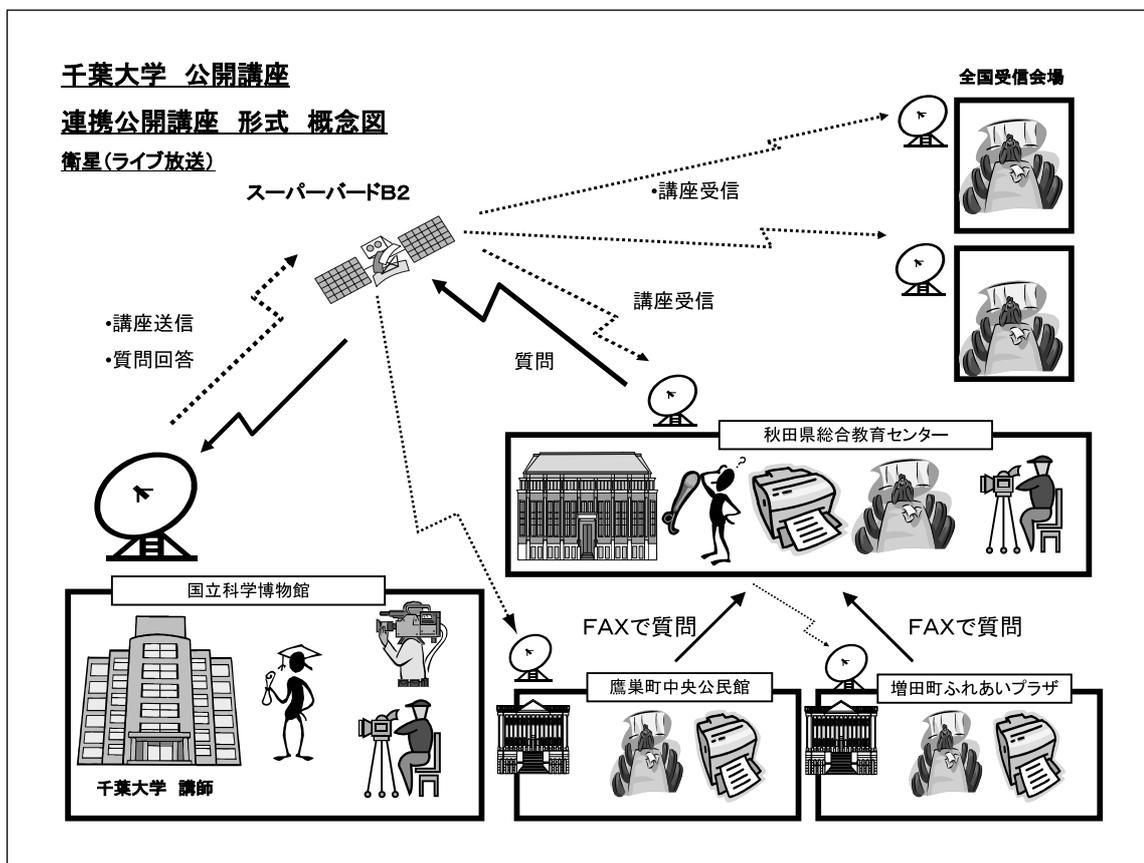
- ・「ライブ放送」：上記システムを使用して各会場を結び、リアルタイムの双方向質疑を取り入れた講座を実施する。
- ・「録画放送」：上記システムを使用して各会場を結び、双方向質疑を取り入れた講座を実施し、その講座番組を収録して放送する。
- ・「録画放送+ライブ放送」：収録しておいた講座番組を放送し、その後ライブ放送に切り替えて、上記システムを使って双方向質疑を実施する。または、収録しておいた講座番組の放送中に、上記システムを使って双方向質疑を実施する。

今年度も、エル・ネット「オープンカレッジ」では、衛星通信に加え、他のシステムを組み合わせることによって、ライブ放送や双方向質疑を実施した講義が行われた。以下で、それらの事例を紹介する。

(1) 衛星 (ライブ放送)

秋田県教育庁生涯学習課／

千葉大学『トライアングル「家庭・学校・地域」子どもを育てよう』



【概要】

12月13日(金)、千葉大学講座『トライアングル「家庭・学校・地域」子どもを育てよう』(明石要一／千葉大学教授)が、ライブ放送で実施された。秋田県総合教育センター(秋田V S A T局)をメイン会場とし、国立科学博物館との間で、エル・ネットによる双方向質疑が行われた。

【方法】

・会場

- ・東京(国立科学博物館)：講師が講義を行う。
- ・メイン会場(秋田県総合教育センター)：コーディネーターが司会を行う。
- ・サブ会場①(秋田県鷹巣町中央公民館)
- ・サブ会場②(秋田県増田町ふれあいプラザ)
- ・送受信の方法

①講師が講義を行っている東京(国立科学博物館)から発信した番組を、メイン会場

とサブ会場で受信する。

②サブ会場からの質問を、ファックスでメイン会場に送る。

③メイン会場からの質問、およびサブ会場からのファックスによる質問をメイン会場
で取りまとめ、講師（東京）へ質問。講師からの回答を各会場で受信。

【講義の進め方】

- ・ 講義（明石講師／東京）：20分。
- ・ 質疑応答（秋田会場）：10分。
- ・ 講義（明石講師／東京）：20分。
- ・ 質疑応答（秋田会場）：10分。
- ・ 休憩：10分。
- ・ 講義（明石講師／東京）：20分。
- ・ 質疑応答（秋田会場）：10分。
- ・ まとめの講義（明石講師／東京会場）：20分。

【課題】

・ 双方向性について

双方向の利点は、リアルタイムの質疑応答だけでなく、その雰囲気も伝えることで、臨場感あふれる内容になることである。

今回は、サブ会場には双方向性がなかったため、その場での質問や講師とのやり取りをする機会がなかった。この点については、たとえばサブ会場にテレビ電話を設置し、画面にサブ会場の参加者が映るようにするなどして、サブ会場における臨場感をいかに向上させるかが課題である。

また、受講者にとって、その場で質問・意見を出すことは難しい。このような「リアルタイムな放送を通じた学習形態」についての学習者の理解がより一層必要と思われる。

・ 生放送について

生放送で実施したことによって、講義に和やかさや具体性が出て、よい番組となった。

技術面では、カメラ・音声・操作等の機械操作に専門性が要求されたが、ほとんどの職員は一度も操作したことはなく、技術研修会を1回行っただけで実施した。今後は、専門的知識を得ながら、年に数回の研修を行い、常時操作可能な状態に熟練する必要がある。

講師と受講者との間に双方向性を持たせる意義は十分にあるが、生放送という点から考えると、互いの質疑応答の事前予想が難しい。今回は講義のレジュメをあらかじめ受講者に配布して、ある程度の質問を準備したが、双方向性を保つために、すべてがリアルタイムで公になる電波以外の方法も併用して行う方法を考える必要がある。

*モデル事業

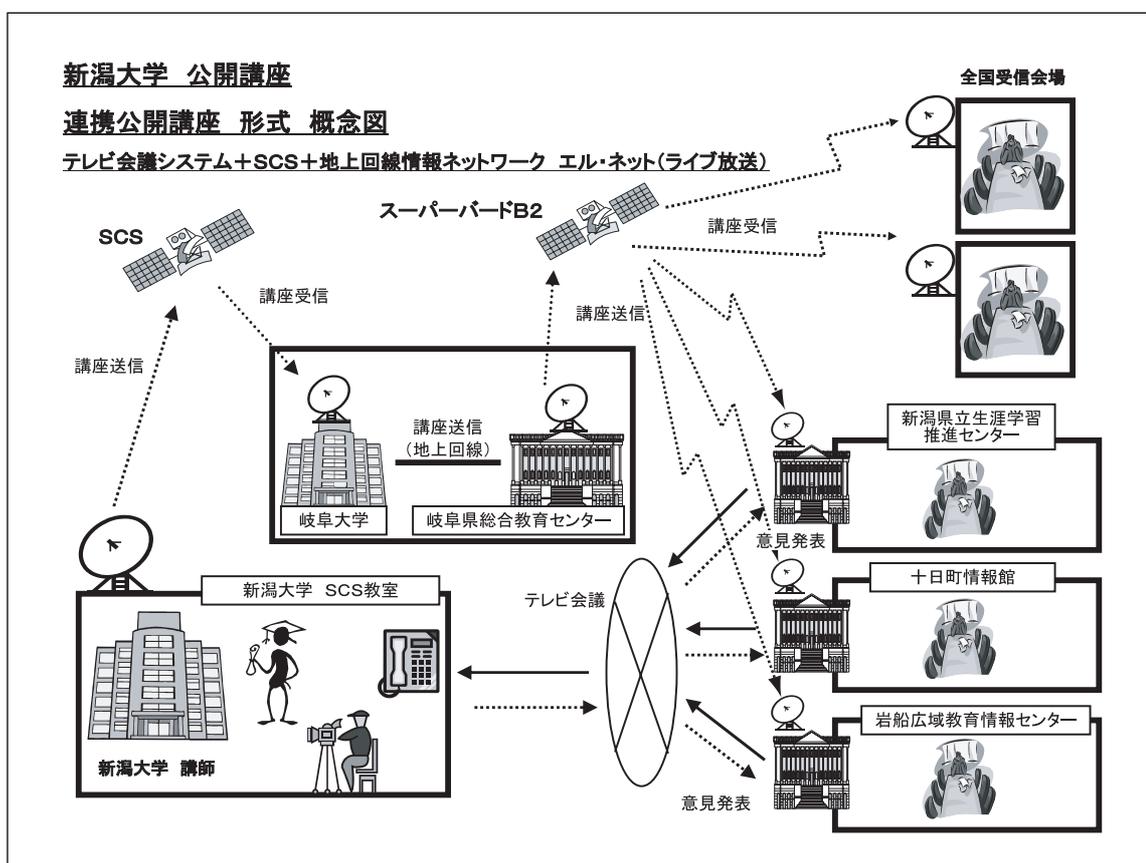
(2) テレビ会議システム+SCS (大学間通信衛星ネットワーク)

+地上回線情報ネットワーク エル・ネット (ライブ放送)

新潟県立生涯学習推進センター／

新潟大学『「にいがた連携公開講座」2002-エル・ネット特別講座』

「日本海がはぐくんだ地域と文化」



【概要】

10月26日(土)、新潟大学講座『「にいがた連携公開講座」2002-エル・ネット特別講座』「日本海がはぐくんだ地域と文化」(原直史/新潟大学教授)が、新潟県立生涯学習センターが中心となって実施された。

この講座は、テレビ会議システムによる地域連携講座「にいがた連携公開講座」の中に、エル・ネット特別講座として組み込んだ形で実施された。

【方法】

新潟県には、エル・ネットのV S A T局が設置されていないため、以下の方法で送受信を行った。

- ①講師が講義を行っている新潟大学から、SCS(大学間衛星通信ネットワーク)でアップリンクし、岐阜大学でそれを受信する。

- ②岐阜大学から地上回線で岐阜県総合教育センター（岐阜V S A T局）に送り、エル・ネットにアップする。つまり、S C Sとエル・ネットを連結して放送した。
- ③新潟大学と、新潟会場（県立生涯学習センター／新潟市）、村上会場（岩船広域教育情報センター／村上市）、十日町会場（十日町情報館／十日町市）とは、テレビ会議システムで結んだ。新潟会場と村上会場からは、それぞれ受講生の意見発表が行われた。

【講義の進め方】

- ・講義（新潟大学／原講師）：1時間。
- ・意見発表（新潟会場／意見発表者）：10分。
（村上会場／意見発表者）：10分。
- ・補足講義（新潟大学／原講師が2人の意見発表を受けて補足講義を行う）：10分。

【課題】

・双方向性について

テレビ会議システムの双方向性を生かして、複数の会場から意見発表を行った。この点については、メイン講師以外からも関連のある話を聞くことができ、講義の質に深まりが見られた。主会場からの一方的な話よりもよかった、という意見が多かった。

今後の課題としては、エル・ネット放送において、双方向性を実現するシステム構築という点である。また、双方向で意見交換を行う場合は、放送時間内に講座を収められるように綿密な計画、準備が必要である。

・システムについて

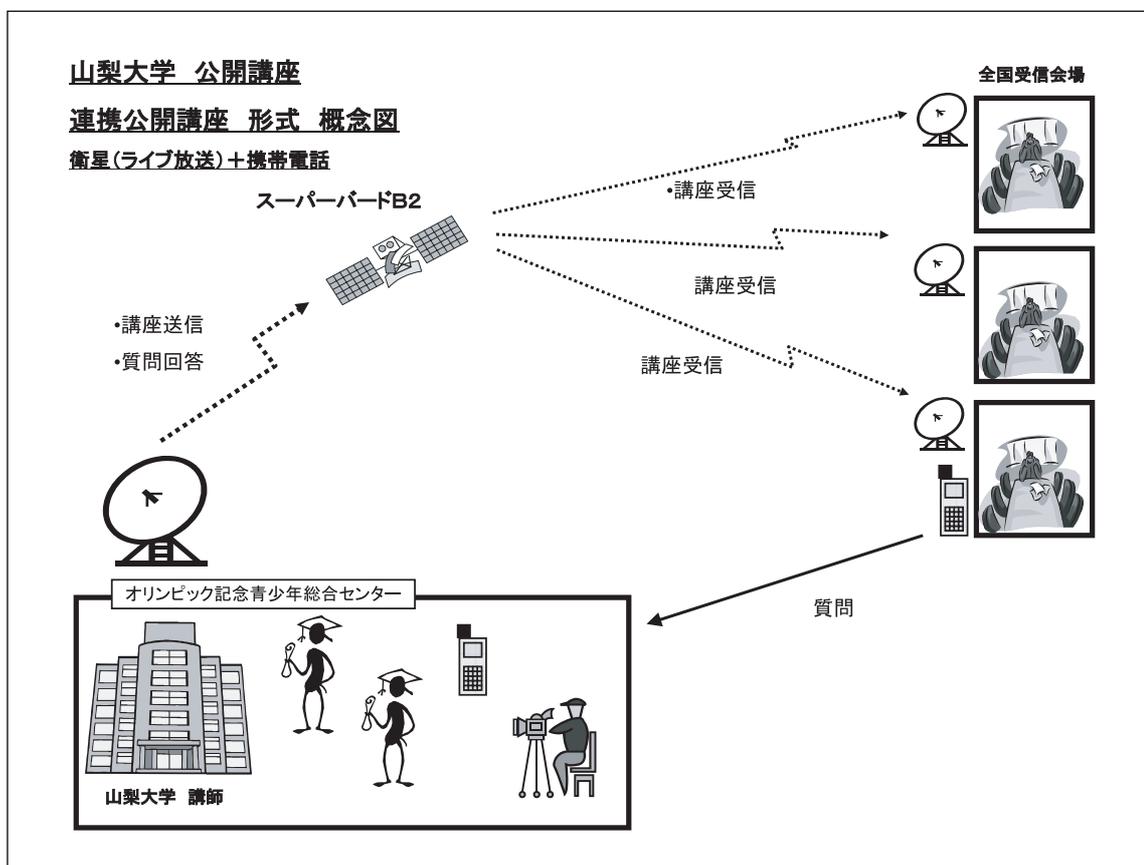
S C Sを活用することで、エル・ネットのV S A T局がなくても、番組を発信する方策があることが実証できた。しかし、そのためには他県のV S A T局や、そこの中継地点の施設に負担がかかることも承知しておかなければならない。

また、本来の画質や音声の良さを生かすためには、エル・ネットを利用して直接放送するのがよい。やはり、ライブでクリアな映像や音声を送るためには、エル・ネットV S A T局が必要であろう。

*モデル事業

(3) 衛星（ライブ放送）＋携帯電話

山梨大学『発達学入門と教育実践学入門』



【概要】

10月26日（土）、山梨大学講座『発達学入門と教育実践学入門』「発達学入門／教育実践学入門」（鳥海順子／山梨大学教授・林尚示／山梨大学助教授）が、ライブ放送で実施された。

【方法】

オリンピック記念青少年総合センターから、講師による講義がライブ放送で行われた。対談形式の番組構成で、前半と後半とで、2人の講師が互いに質問をし合う形で進められた。講義中、一般の受講者から携帯電話を使って質問を受け付けた。携帯電話の番号をテレビ画面にテロップで出し、その番号に電話をかけてもらう形を取った。

【講義の進め方】

- ・ 講義（鳥海講師）：30分。
- ・ 対談（鳥海講師・林講師／林講師や受講者からの電話による質問に、鳥海講師が回答する）：15分。

- ・休憩：10分。
- ・講義（林講師）：30分。
- ・対談（林講師・鳥海講師／鳥海講師や受講者からの電話による質問に、林講師が回答する）：15分。

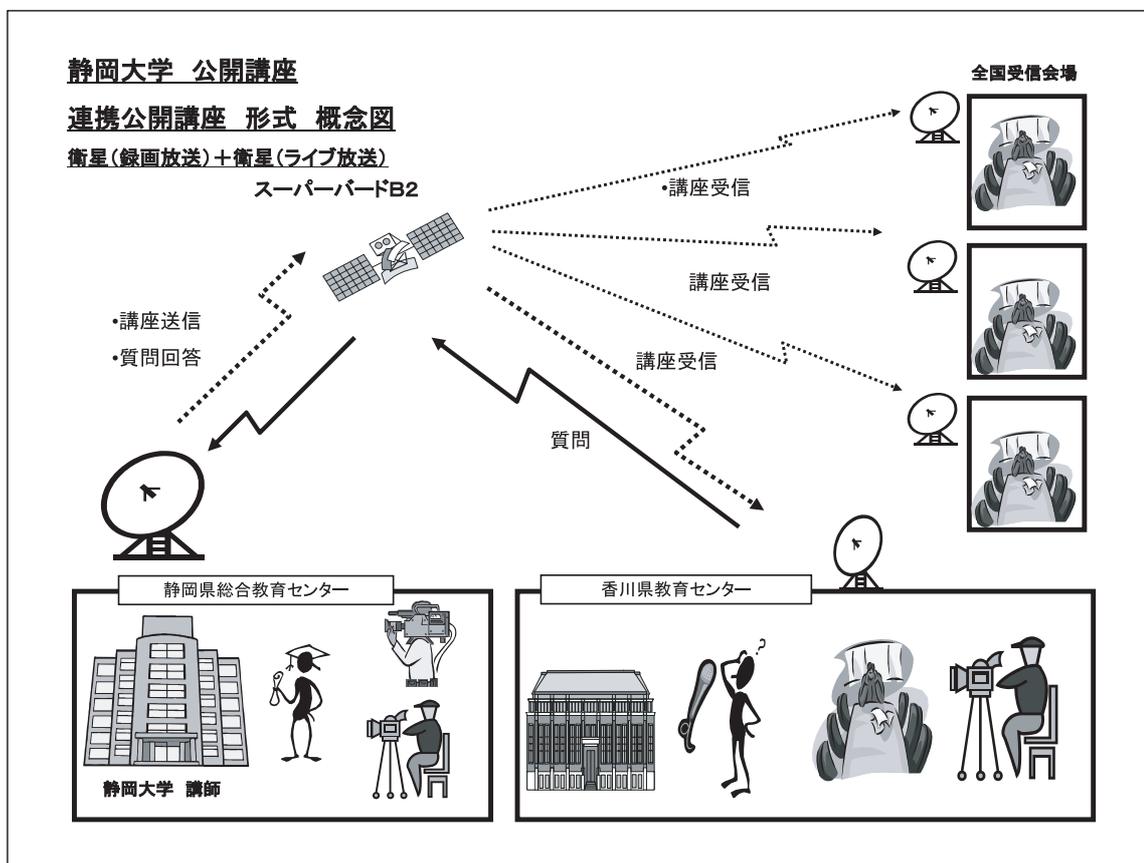
【課題】

2人の講師の対談形式で、講義全体がスムーズに行われた。

受講者からかかってくる携帯電話を受け、質問をメモして講師に手渡すスタッフが必要である。その際、収録現場では、その声が放送に入ってしまうこともある。また、携帯電話の感度がよくない所では、会話に支障がでるため、できれば有線の電話による質問受付が望ましい。

(4) 衛星（録画放送）＋衛星（ライブ放送）

静岡大学生涯学習教育研究センター／
静岡大学『やきもの考古学』



【概要】

静岡大学講座『やきもの考古学』（全2回）（柴垣勇夫／静岡大学教授）が、①2月8日（土）、②2月22日（土）に放送された。

この講座は、静岡大学生涯学習教育研究センターの公開講座『きて見て静大』「やきもの考古学」（全5回）のうち、第1，2回目の講義をエル・ネット「オープンカレッジ」の講座として放送したものである。この2つの講座は、大学で独自収録し、エル・ネット「オープンカレッジ」放送当日に、その録画を放送した。第2回目の講義の放送後、ライブによる実習（やきもの出土品の復元作業）が実施された。このライブ放送時に、VSAT局間での双方向質疑が行われた。

【方法】

この講座では、やきもの出土品の復元作業が実習として行われる。その実習を、第2回目の録画番組の放送終了後（2月22日／16：03～16：50）に、ライブ放送で実施した。静岡県総合教育センター（静岡VSAT局）にいる柴垣講師と、香川県教育センター（香川

V S A T局) にいる受講生との間で、双方向質疑を実施した。このライブ放送時には、講師と受講生との質疑応答の他、香川会場にいる専門員による香川県の出土陶器に関する報告も行われた。

【講義の進め方】

①「やきもの考古学Ⅰ（日本陶磁史概説）」／2月8日（土）：録画放送

②「やきもの考古学（古代・中世の陶器とその復元）」／2月22日（土）：

録画放送の後、10分間の休憩をはさみ、約50分のライブ放送を行った。香川会場（香川県教育センター）の受講生からの質問に、静岡会場（静岡県総合教育センター）にいる柴垣先生が回答する形で進められた。あわせて、やきもの出土品の復元作業の実習が、それぞれの会場で行われた。最後に、香川会場にいる専門員による香川県の出土陶器に関する報告も行われた。

【課題】

香川会場では、専門職員3人に対応していただいたため、実習がより充実した講義となった。

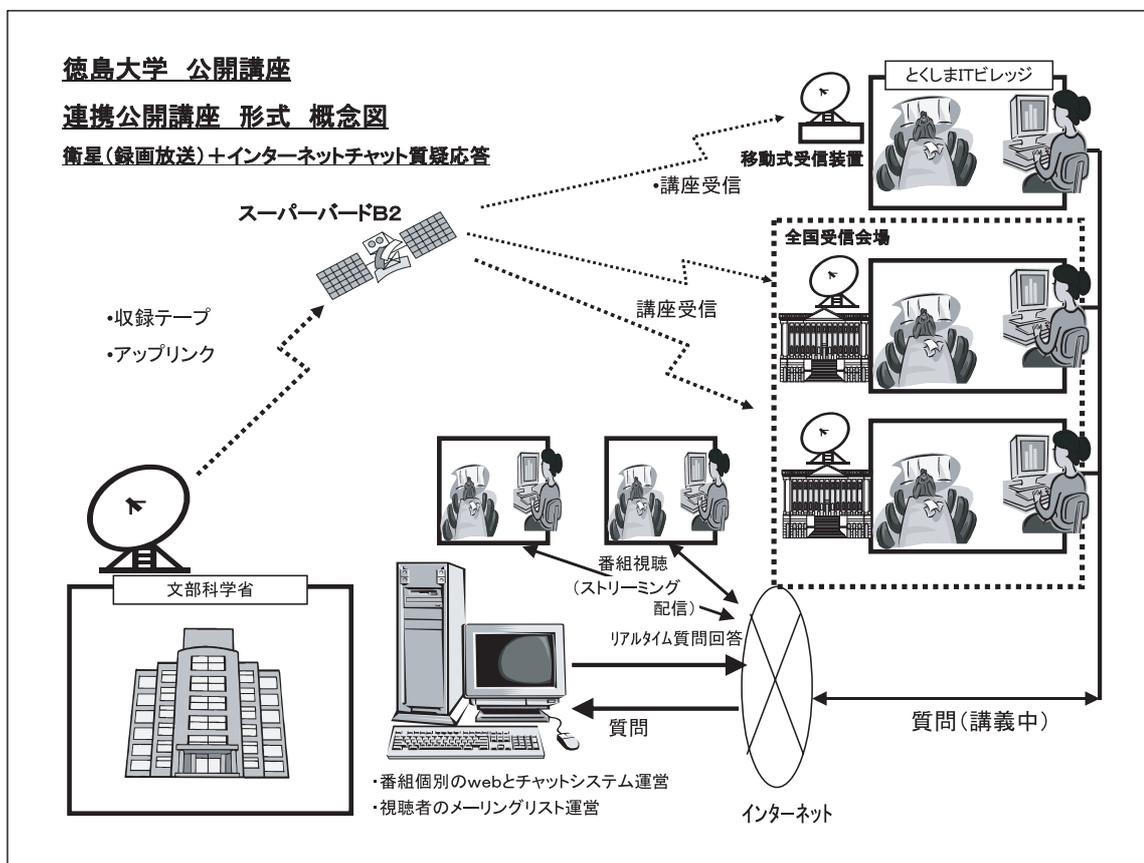
この講座を通して、エル・ネットを用いて、遠隔地間で実技・実習を伴う講座を実施する可能性が確認された。エル・ネット「オープンカレッジ」が今後、活性化するために、このような実技・実習を伴う講義形態も考えられる。

*モデル事業

*eラーニング講座開講

(5) 衛星（録画放送）＋インターネットチャット質疑応答

徳島大学大学開放実践センター／
徳島大学『ホノルルマラソンをインターネット中継しよう！』



【概要】

徳島大学講座『ホノルルマラソンをインターネット中継しよう！』（全3回）（吉田敦也／徳島大学教授）が、①1月16日（木）、②1月23日（木）、③1月30日（木）に放送された。

この講座は、徳島大学大学開放実践センターの公開講座である「パソコン・インターネット活用総合学習講座『ホノルルマラソンをインターネット中継しよう！』」による展開である。この講座の中では、インターネット学習のステップアップとして、ホノルルマラソンのインターネットライブ中継に取り組んだ。この講座を大学独自収録によりコンテンツ化し、エル・ネット「オープンカレッジ」の講座として放送した。

【方法】

エル・ネットの録画放送とともに、インターネット上でのストリーミング配信を実施し、放送時にはインターネットチャットを用いたリアルタイム質疑応答、ならびに受講者間交流が行われた。講座は、とくしまITビレッジと那賀川町科学センターにて開講。ITビ

レッジには、エル・ネット受信装置がないため、移動式受信装置を設置した。

【講義の進め方】

- ①「暮らしをつくるパソコン・インターネット」／1月16日（木）
 - ・講義（吉田講師）録画放送：20分。
 - ・質疑応答：（チャットを使った質疑応答・議論をライブ放送で実施）：10分。
 - ・講義（吉田講師）録画放送：20分。
 - ・質疑応答（チャットを使った質疑応答・議論をライブ放送で実施）：10分。
- ②「技術に向かう楽しさ」／1月23日（木）
 - ・講義（吉田講師）録画放送：30分。
 - ・質疑応答：（チャットを使った質疑応答・議論をライブ放送で実施）：10分。
 - ・講義（吉田講師）録画放送：30分。
 - ・質疑応答（チャットを使った質疑応答・議論をライブ放送で実施）：10分。
- ③「インターネットライブ中継システムの構築」／1月30日（木）
 - ・講義（吉田講師）録画放送：20分。
 - ・質疑応答：（チャットを使った質疑応答・議論をライブ放送で実施）：10分。
 - ・講義（吉田講師）録画放送：20分。
 - ・質疑応答（チャットを使った質疑応答・議論をライブ放送で実施）：10分。

【課題】

アンケート結果からは、受講生が大変熱心に学習し、3回とも満足度の高い講座となったことが伺える。このことは、チャットによるリアルタイム質疑応答を行ったことに大きく関係していると考えられる。講義中、講師との対話が絶え間なく起こり、受講生の質問に受講生が答えるという場面も見られた。また、対話内容から、楽しい雰囲気での学習が進み、建設的な意見交換や新しい発見を得た受講生が多かったようである。このように、インターネットの活用は、エル・ネット「オープンカレッジ」の視聴にさまざまな付加価値を付けられることが実証された。

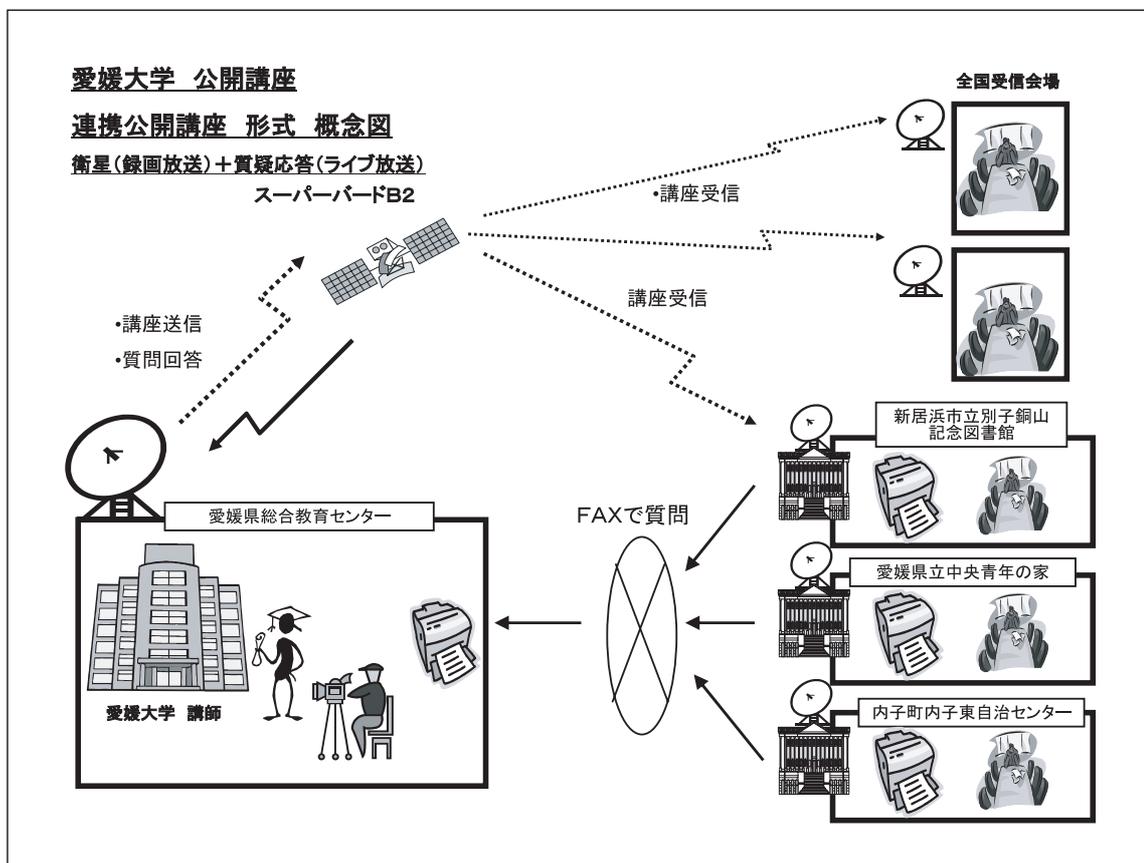
*モデル事業

*eラーニング講座開講

(6) 衛星（録画放送）＋質疑応答（ライブ放送）

愛媛県教育委員会生涯学習課／

愛媛大学『街がはぐくむ演劇、演劇がはぐくむ街』



【概要】

愛媛大学講座『街がはぐくむ演劇、演劇がはぐくむ街』（全3回）が、①12月6日（金）、②12月7日（土）、③12月21日（土）に放送された。講座は、大学独自収録され、愛媛県総合教育センター（愛媛V S A T局）から発信した。県内複数の受講施設（新居浜市立別子銅山記念図書館、愛媛県立中央青年の家、内子町内子東自治センター）で、愛媛大学公開講座を実施した形で行われた。

第3回目の講座は、録画放送後にライブ放送に切り替え、ファックスで受け付けた質問に、ライブ放送で講師が回答した。

【方法】

講座の第1、2回目は、講座終了後に受講者に質問票を記入してもらい、その内容を集計して大学に送り、最終日までに、講師が回答を準備することができるようにした。第3回目には、講座の録画放送中からファックスで質問を受け付け、講座終了後に前回までの質疑内容と併せて講師が回答した。その質疑応答の部分で、ライブ放送が実施された。

【講義の進め方】

- ①「レビューが生れた街ー進化する演劇都市、宝塚ー／ブロードウェイ・ミュージカルの世界とニューヨーク」(今泉 志奈子／愛媛大学講師、大野 一之／愛媛大学助教授)／12月6日(金)：録画放送
- ②「町民劇場の保存と地域づくり／フランス演劇の舞台をめぐってーパリの劇場とアヴィニヨンの演劇祭」(柳 光子／愛媛大学助教授)／12月7日(土)：録画放送
- ③「内子座(愛媛県内子町)とグローブ座(ロンドン)／オペラとオペレッタの街、ウィーン」(井上 彰／愛媛大学助教授、安藤 秀國／愛媛大学教授)／12月21日(土)：録画放送後、ライブ放送に切り替え、ファックスで届いた受講者からの質問に井上講師と安藤講師が回答した。第1回目と第2回目の講座への質問については、安藤講師と井上講師が、代読する形で回答した。質疑応答のライブ放送部分は約30分で、10ほどの質問に回答がなされた。ファックスで届いた質問は、全部で延べ37通であった。

【課題】

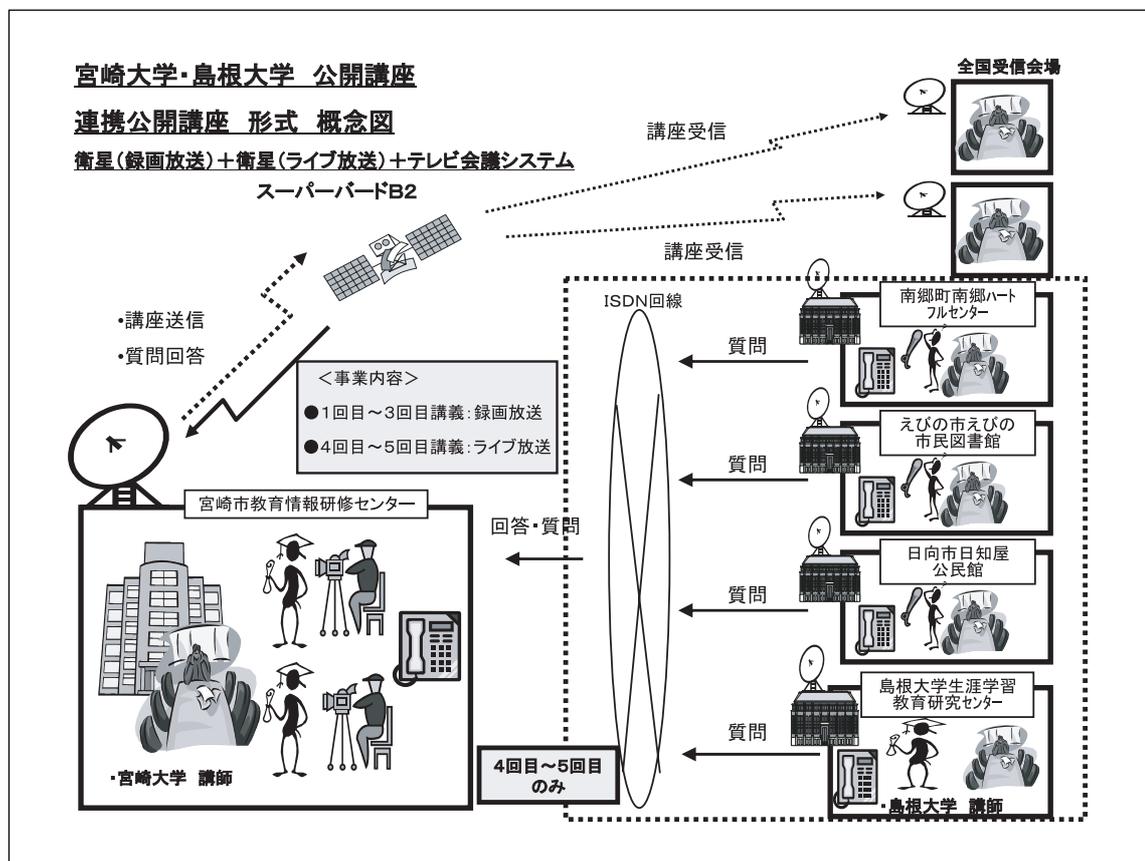
住民がエル・ネット受信施設に足を運び、講座を視聴することを推進していくためには、一方通行の講義から、双方向システムにしていくことが重要であることがわかった。今回は、ファックスや質問票による質疑にとどまったが、今後は、メールやチャットによるやり取りやテレビ会議システムなどの導入も考慮しながら、エル・ネットを活用した講義の普及に努めていくことが重要である。

*モデル事業

(7) 衛星（録画放送）＋衛星（ライブ放送）＋テレビ会議システム

宮崎大学生涯学習教育研究センター／

宮崎大学・島根大学『日本文化の源流を探る－日向と出雲の神話と芸能－』



【概要】

宮崎大学と島根大学とが連携して講座を制作し、『日本文化の源流を探る－日向と出雲の神話と芸能－』（全5回）が放送された。第1～3回は録画放送、第4～5回はライブ放送で実施された。特に、第5回目では、各会場をテレビ会議システムで結び、全講師によるシンポジウムと双方向質疑を行った。

【方法】

- ①全5回とも、宮崎市の宮崎市教育情報センター（V S A T局）から全国に放送した。全5回のうち、第1～3回は録画放送、第4～5回はライブ放送で実施。
- ②第4回目では、地元神楽保存会の方による神楽の実演を行い、いっそう臨場感のあるライブ放送を行った。
- ③第5回目で、宮崎会場（宮崎市教育情報センター）と宮崎県内の3会場（南郷ハートフルセンター・えびの市民図書館・日向市日知屋公民館）、島根会場（島根大学）とをテレビ会議システムで結んだ。そして、全講師によるシンポジウム（パネルディスカッション）を行った。

ション)、および各会場からの双方向質疑をライブ放送で行った。また、全国の受講会場からファックスによる質問を受け付け、ライブ放送でその回答を行った。

【講義の進め方】

- ①「日向神話にみられる日本文化」(山田 利博/宮崎大学教授)
／1月18日(土):録画放送
- ②「出雲神話にみられる日本文化」(藤岡 大拙/島根県立女子短期大学学長)
／1月25日(土):録画放送
- ③「出雲の神楽・芸能にみられる日本文化」(白石 昭臣/前島根県立国際短期大学教授)
／2月1日(土):録画放送
- ④「日向の神楽・芸能にみられる日本文化」(山口 保明/宮崎県立看護大学教授)
／2月15日(土):ライブ放送
- ⑤「日本文化の源流を探る」(全講師) / 2月15日(土):ライブ放送
全講師によるシンポジウム(パネルディスカッション)、および各会場からの双方向
質疑をライブ放送で行った。

【課題】

・ライブ放送について

ライブ放送の利点は、講師や受講者が緊張感を持って一体となった形で講義、学習が進められること、その緊張感や臨場感がそのまま遠隔地の受講会場に伝わること、ファックスやテレビ会議システム等での質問に即座に回答できること、などの点があげられる。

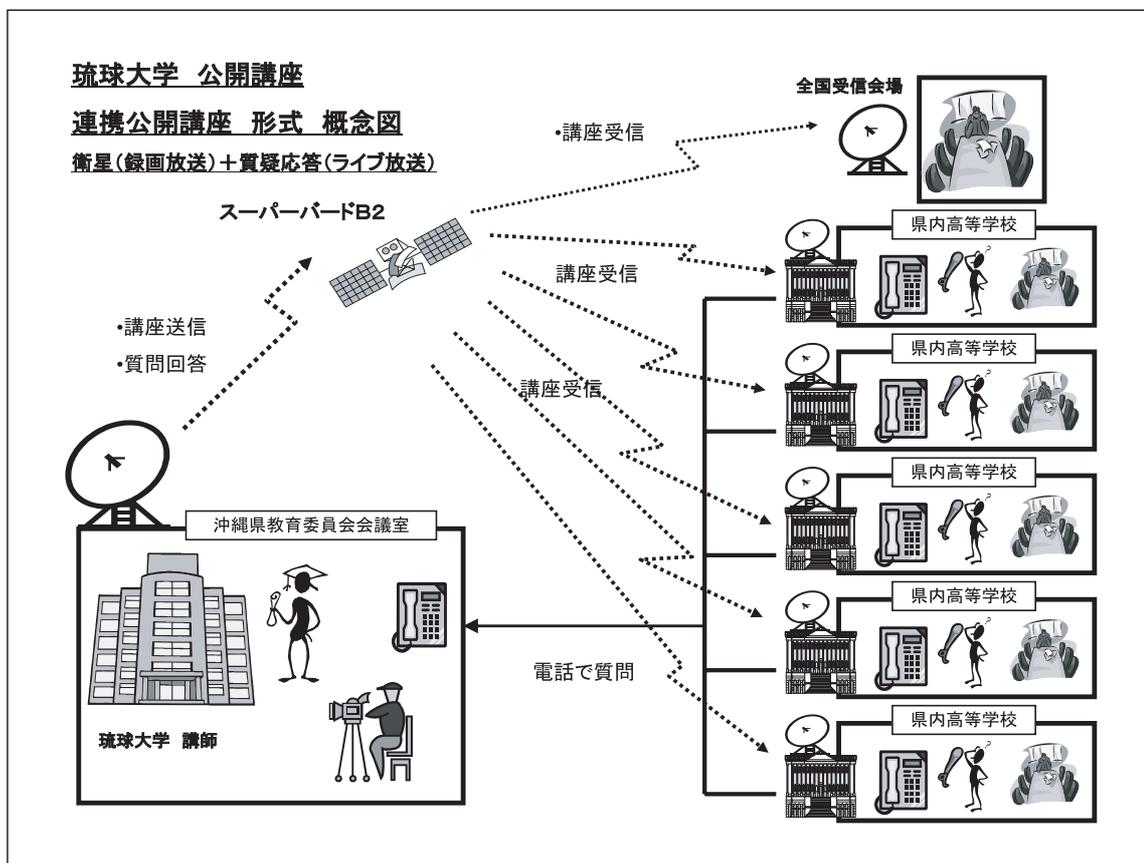
・ISDN回線によるテレビ会議システムの利用について

宮崎県内の3会場と島根大学の計4つの会場をISDN回線によるテレビ会議システムで結び、パネルディスカッションや各会場の受講者からの質問を受け付けた。このようなテレビ会議システムを活用した双方向の講義形態については、約55%の人が「とてもよかった」、あるいは「まあまあよかった」と考えている。しかし、各受講会場からのテレビ会議システムを通じた音声、衛星通信を経由して放送されたときに聞き取りがたい場面があり、受講者からも音質レベルの向上について希望があった。

*モデル事業

(8) 衛星（録画放送）＋質疑応答（ライブ放送）

琉球大学生涯学習教育研究センター／
琉球大学『琉球大学と中国・アジアとの交流史』



【概要】

琉球大学講座『琉球大学と中国・アジアとの交流史』（全2回）が、①1月7日（火）、②1月14日（火）に放送された。講座は、琉球大学が独自収録した録画番組を、沖縄県教育委員会（沖縄V S A T局）から発信した。第2回目の講座の録画放送後、ライブ放送に切り替え、双方向質疑を実施した。双方向質疑は、県内の高校と結び、高大連携のモデル事業として実施した。

【方法】

番組収録は、エル・ネットの機材設備のある県立総合教育センターの研修室に県立北中城高等学校の生徒を集めて講義を進め、その模様を録画した。講義はテレビモニターを使用して、事前に撮影した風景や編集した資料を示しながら進めた。

番組放送は、沖縄県教育委員会会議室（V S A T局）をメイン会場としてスタジオを設置し、サテライトの5会場と電話回線を接続した。スタジオには講師に待機してもらい、サテライト会場で高校生に視聴してもらった。結果として、7高校の生徒が延べ407人受

講した。

放送当日は、最初に収録したビデオをV S A T局から放送し、録画放送後、講師の映像をライブで送り、電話による質疑応答を実施した。サテライト会場では、講師の生の姿を見ながら質問をし、講師は電話での質問に応えるという方式である。

【講義の進め方】

①「琉球王国と首里城／琉球とアジアの交流」(高良 倉吉／琉球大学教授)／1月7日(火)

- ・講義(高良講師)録画放送:50分。
- ・休憩:10分。
- ・講義(高良講師)録画放送:33分。
- ・質疑応答とまとめの講義(コーディネーターは加藤幹夫氏(琉球大学教授)。県内高校生との双方向質疑をライブ放送で実施):17分。

②「琉球の詩人と中国／漢詩に詠まれた琉球」(上里 賢一／琉球大学教授)

／1月14日(火)

- ・講義(上里講師)録画放送:50分。
- ・休憩:10分。
- ・講義(上里講師)録画放送:45分。
- ・質疑応答とまとめの講義(コーディネーターは加藤幹夫氏。県内高校生との双方向質疑をライブ放送で実施):15分。

【課題】

ライブ放送での電話による質疑応答は、機器操作に専門性が要求されるものであった。初めての試みであった上に、職員が機器操作をする頻度が少ないため、民間事業者の協力を得なければ実現が難しかった。今後、収録・編集・放送にかかわる専門スタッフの養成が必要である。

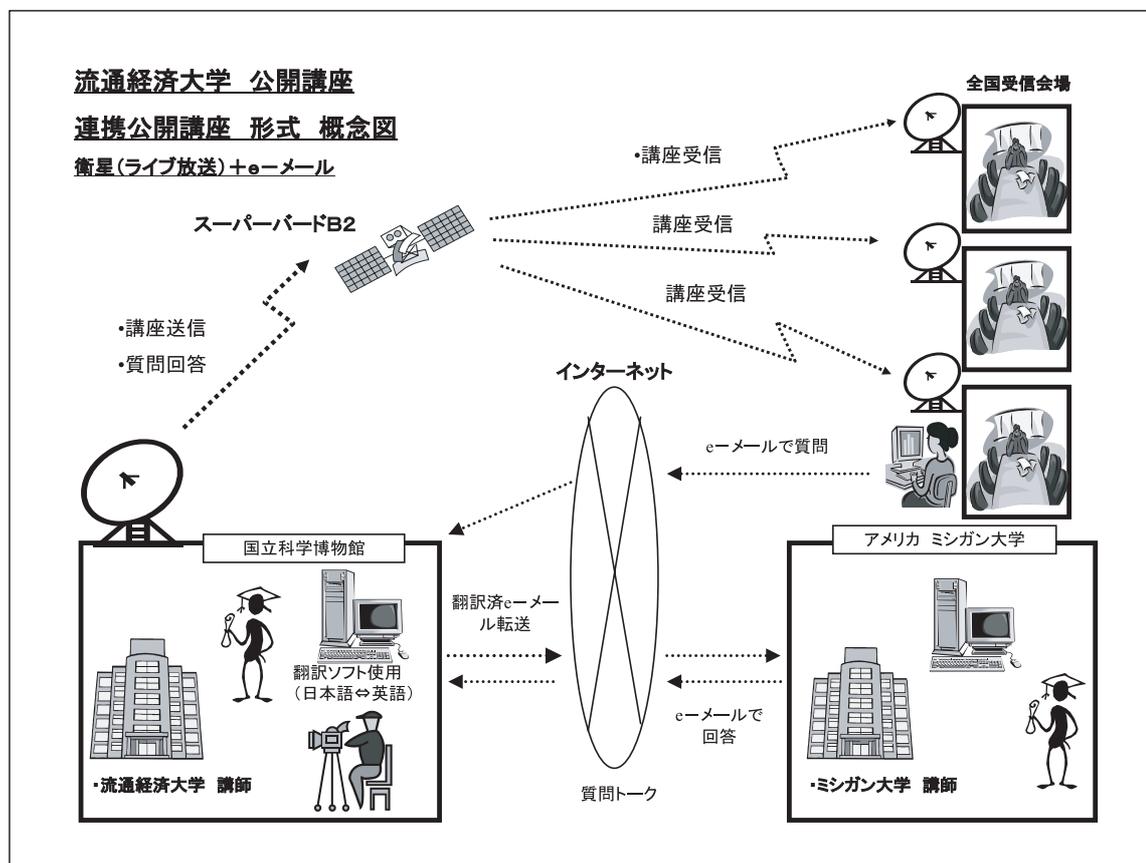
質疑応答に関しては、生放送で実際に質問が出るかどうか心配な面もあったため、テキストを事前に配布し、予習を心がけてもらった。この点に関しては、講義内容が沖縄の歴史という高校生にも身近な題材であったこともあり、多くの質問が出された。

講義に引き続いた質疑応答では、講師が通常の講義のように話しかけながら行っていたので、放送全体がライブ放送で進めているように感じられた。

*モデル事業

(9) 衛星（ライブ放送）＋テレビ会議システム＋eメール

流通経済大学『インターネット社会は積極的に働きかけて生活しよう』
「インターネット社会の世界を学習する」



【概要】

11月2日（土）、流通経済大学講座『インターネット社会は積極的に働きかけて生活しよう』「インターネット社会の世界を学習する」（井川信子／流通経済大学助教授）が、ライブ放送で実施された。この講義では、アメリカのミシガン大学のキング教授から協力を得て、キング教授へのインタビューのビデオを紹介したり、ライブ放送で質問トークを行ったりした。

生涯学習の場としても知的活動に活用される図書館の近未来像について、アメリカの実情をミシガン大学を例に紹介、質問トークをまじえながら解説された。

【方法】

国立科学博物館から、講師による講義がライブ放送で行われた。第1部では講義、第2部ではビデオを流した。第3部で、アメリカのミシガン大学とテレビ会議システムで結び、キング教授らと質問トークを行った。

また、講義中、受講者からキング教授への質問をeメールで受け付けており、その質

問を井川講師が翻訳ソフトを使いながらアメリカ会場と e メールでやりとりした。まず、受講者からの質問メールを、井川講師が翻訳ソフトを使って英語に直し、ミシガン大学のキング教授に送信する。そして、キング教授から英語で返信された回答メールを、井川講師が翻訳ソフトで日本語に直して紹介した。

この講義では、ミシガン大学に長期出張中の市川新氏（流通経済大学教授）がコーディネーターとなり、講義全体をサポートした。

【講義の進め方】

- ・ 第1部 テキストにそって講義（井川講師）：30分。
- ・ 第2部 ビデオ（アメリカのミシガン大学キング教授へのインタビュー）：25分。
補足説明（井川講師）：5分。

・ 休憩：10分。

- ・ 第3部 質問トーク

（井川講師が、講義中に届いた受講者からの e メールによる質問を、ミシガン大学にいるキング教授へ e メールで転送する。折り返し、その返事がキング教授からメールで届く。翻訳ソフトを活用した。）：30分。

まとめ（ミシガン大学でコーディネートしている市川氏と井川講師によるトーク）：10分。

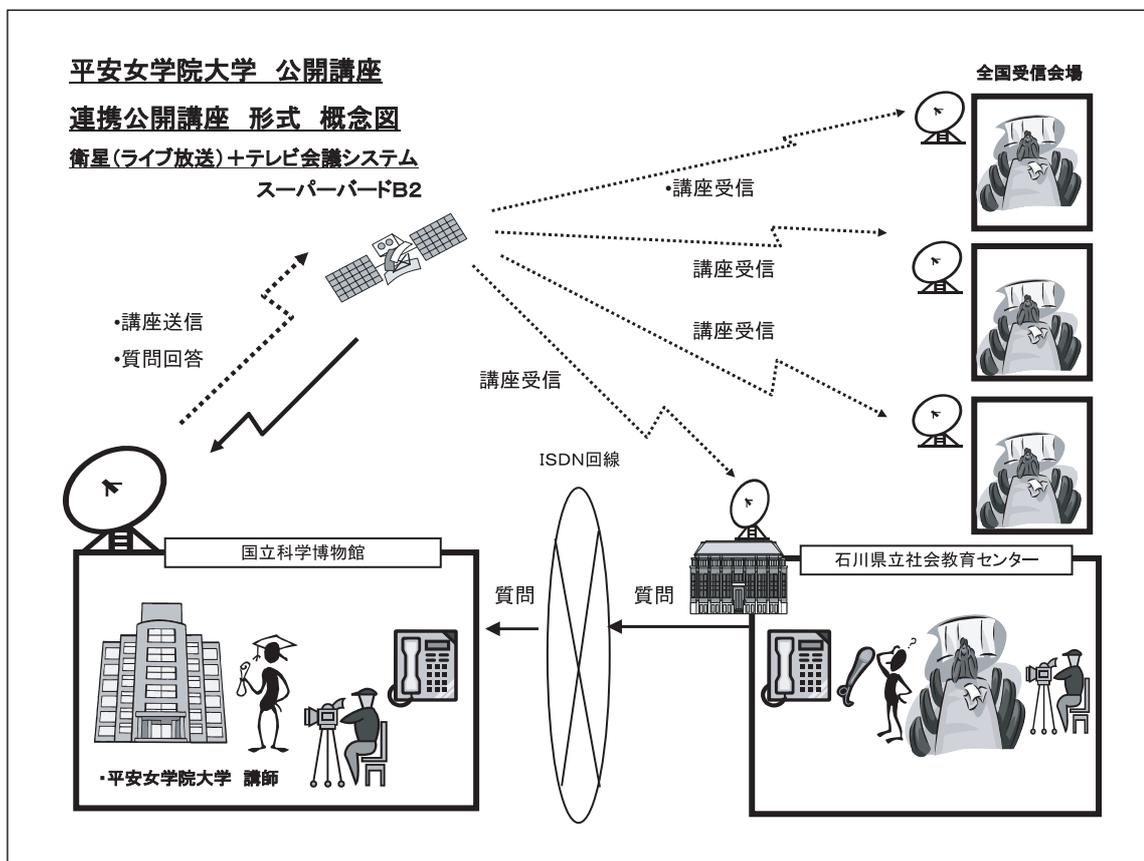
【課題】

今回は、日本と時差のあるアメリカとリアルタイムでの双方向質疑を実施した。細かな打合せが不十分であったため、アメリカ会場の方で、講義の流れを確認できていない部分があった。海外などの時差のある所とリアルタイムで双方向質疑を行う場合は、タイムスケジュールや段取りなどの事前打ち合わせを十分に行う必要がある。

* e ラーニング講座開講

(10) 衛星（ライブ放送）＋テレビ会議システム

石川県立社会教育センター／
平安女学院大学『ボランティア活動と社会参加』



【概要】

10月11日（金）、石川県立社会教育センターで、平安女学院大学講座『ボランティア活動と社会参加』「ボランティア活動と生涯学習」（坂口順治／平安女学院大学・平安女学院短期大学部学長）を活用した公開講座が実施された。

これは、生涯学習フェスティバル「第9回高齢化社会参加フォーラム2002in石川」（会場：石川県立社会教育センター）のプログラムの1つとして行われた。公開講座はライブ放送で行われ、テレビ会議システムを利用して講師との質疑応答を実施したものである。

【方法】

国立科学博物館から、講師による講義がライブ放送で行われた。テレビ会議システムを利用して石川会場（石川県立社会教育センター）とつなぎ、講師と双方向で質疑応答を実施した。

石川会場では、コーディネーターに岡野絹枝氏（金城大学短期大学部助教授）を迎え、会場の質問をまとめ役をお願いした。

【講義の進め方】

- ・ 講義（東京／坂口講師）：30分。
- ・ 質疑（石川会場／岡野氏が質問をまとめる）：10分。
- ・ 休憩：10分。
- ・ 講義（東京／坂口講師）：20分。
- ・ 質疑（石川会場／岡野氏が質問をまとめる）：10分。
- ・ まとめ講義（東京／坂口講師）：10分。

【課題】

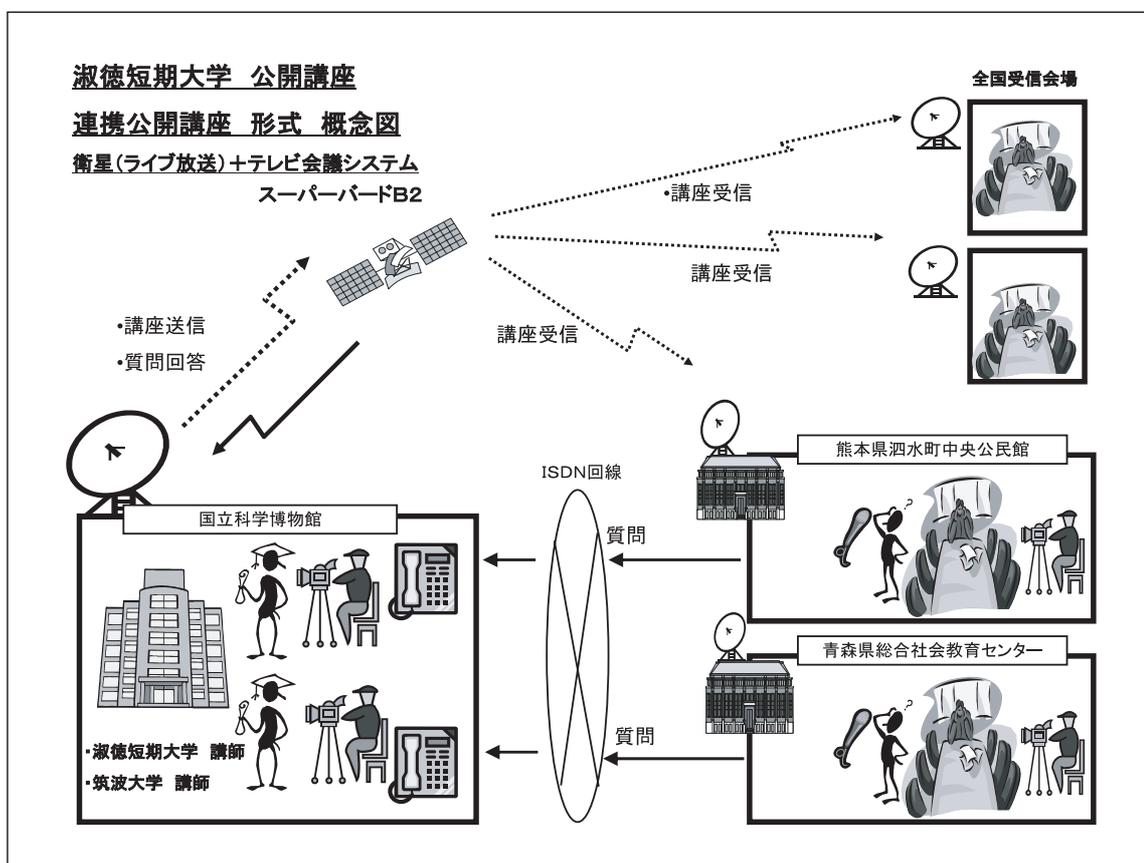
ライブ放送という点で、受講者にとっては、講師との質疑応答を通して生放送に参加している臨場感が得られ、参加意識が高まったようだ。反面、緊張感が高まり、和やかさにかけていたとの指摘もある。講義中、受講者にリラックスするよう促すべきだった。

テレビ会議システム利用のために、事前準備を十分にする必要があった。この点については、公民館などでは職員が対応しにくい面がある。技術力を投入すればするほど経費もかかり、その点も問題である。できるだけ簡単に対応できるようにすることが、今後の課題である。

*モデル事業

(11) 衛星（ライブ放送）＋テレビ会議システム

熊本県泗水町教育委員会生涯学習課／
淑徳短期大学『21世紀生涯学習への招待』



【概要】

12月14日（土）、熊本県泗水町中央公民館で、淑徳短期大学講座『21世紀生涯学習への招待』（浅井経子／淑徳短期大学教授、山本恒夫／筑波大学名誉教授）が、ライブ放送で実施された。そこで、テレビ会議システムによる双方向質疑を実施した。熊本県泗水町公民館においては、週2回程度、エル・ネット「オープンカレッジ」を活用し、メニュー選択型の講座を展開している。

【方法】

テレビ会議システムを利用して、講師のいる東京（国立科学博物館）と青森会場（青森県総合社会教育センター）、熊本会場（熊本県泗水町中央公民館）とを結び、双方向での質疑応答を実施した。

【講義の進め方】

- ① 「これからの社会と人生の完成」

- ・はじめに（東京／浅井講師）：2分。
- ・講義、対談（東京／浅井講師・山本講師）：24分。
- ・質疑応答（青森会場・東京）：8分。
- ・講義、対談（東京／浅井講師・山本講師）：12分。
- ・休憩：5分。
- ・質疑応答：（熊本会場・東京）：10分。
- ・講義、対談（東京／浅井講師・山本講師）：23分。
- ・質疑応答（熊本会場・青森会場・東京）：12分。
- ・おわりに（東京／山本講師）：2分。

②「ともに学ぶ地域と私」

- ・はじめに（東京／浅井講師）：5分。
- ・問題提起①（青森会場）：10分。
- ・問題提起②（青森会場）：10分。
- ・講師の感想（東京）：10分。
- ・質疑応答（東京・青森会場）：5分。
- ・休憩：5分。
- ・意見発表、質疑応答（東京・青森会場）：40分。
- ・まとめ（東京）：10分。

【課題】

テレビ会議システムによる双方向の質疑応答は初めての試みだった。「地方にしながら東京の講師と直接質問のやり取りができてよい」、「臨場感があり、いつもと違った講義だった」、「カメラには映りたくない」など、さまざまな感想や意見があった。受講者の高い満足度が伺えたが、いつもこのような講座を実施できるわけではないので、住民の身近にどう広げていくか、これから十分検討していく課題である。

*モデル事業

4. 講義の形態と単位認定等について

(1) 創価大学『21世紀と「心」の教育』

- ①「心の世紀と心理学Ⅰ」
- ②「心の世紀と心理学Ⅱ」
- ③「日米の少年院における矯正教育」

今年度、創価大学では、通信教育生に限り、上記3講義を含めた10講義とレポートによって、通信教育部共通科目の新科目「総合科目（学問と人生）」の2単位が取得できるようにした。

受講希望者は、創価大学通信教育部へ葉書、または電話で申し込みをする。大学側は、折り返しテキストを受講者へ郵送した。受講会場については、大学側が受信施設と個別に交渉し、全国8か所の受講会場を準備した。もちろん、他の受信会場で視聴しても、それを大学へ登録すれば単位認定をしてもらうことができる。大学側が準備した8会場だけでも、112名の参加があった。

エル・ネット「オープンカレッジ」の講座を大学の単位認定につなげている事例の1つとなっている。

受講会場

- ①北海道立生涯学習かでの2・7
- ②宮城県図書館生涯学習室
- ③石川県立図書館
- ④神奈川県立図書館
- ⑤名古屋市千種生涯学習センター（ロビー）
- ⑥和歌山県立田辺市民総合センター 2F（子供センター）
- ⑦大阪市立城北市民学習センター（研修・ロビー）
- ⑧福岡県立社会教育総合センター（第4研修室）

(2) 宮崎大学・島根大学『日本文化の源流を探る－日向と出雲の神話と芸能』

- ④「日向の神楽・芸能にみられる日本文化」
- ⑤「日本文化の源流を探る（パネルディスカッション）」

上記講義については、放送大学宮崎学習センターの面接授業の一部と合同で実施された。放送大学の講義は「地域文化論」（15時間：1単位）、講師は山口保明氏（宮崎県立看護大学教授）で、エル・ネット「オープンカレッジ」本講座の講師でもある。期日は2月15日、宮崎市教育情報研修センターでの双方向ライブ講義において実施。受講者は35名であった。